大正二年四月二十九日第三種郵便物認可　大正二年五月一日發行

新眞婦人

第一號（五月一日發行）

▼女の不自由　西川文子

▼戀愛と自覺　木村駒子

▼女性の自覺　宮崎光子

▼男優りの女　黑光女史

▼カフエーの電話　小口みち子

▼野の聲　鳥林あぐり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

看護婦見習生募集

年齢十八歳以上
學力尋常小學卒業以上
品行方正ニシテ傳染病ヲ有セザル女子ニ限ル

院長診察 月、水、木、金、午前
入院診後應需
林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤

（電本）
八八八（病院用）
八九八（自宅用）

東洋内科醫院

東京神田駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長 醫學士 高田畊安

電話 ちがさき二番

相州高座郡茅ヶ崎町海濱從停車場半里

南湖院

河野、高橋、兩副長ハ目下當院ニ在勤
院長診察土曜日午後。入院、診後應需

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二回婦人雄辯會

△時● 五月四日午後〇時半より

△處● 神田橋畔和强樂堂にて

△辯●士●及●演●題●

婦人と職業　有田しづ子

人としての女性　宮崎光子

藝術と婦人　木村駒子

婦人處世論　中島俊子

男女交際論　西川文子

婦人の趣味生活　尾崎恒子

△餘●興●

琵琶　大村錦波

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人第一號

口繪　覺醒	
宣言	
女の不自由	西川文子
逝きし子よ	小口みち子
結婚道德、戀愛道德の批評の批評	西川文子
俳句	龍子
女性の自覺	宮崎光子
紅い着物（口語詩）	木村駒子
短歌	龍子
上古の女	新眞婦人社編
男優りの女	黑光女史
カフェーの電話（小說）	小口みち子
戀愛と自覺	木村駒子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

五月一日發行目次

野の聲　鳥林あぐり
狸趣味　尾崎恒子
内田魯庵先生と語る　西川文子
獨逸の婦人　加藤さき子
女優生活　上山浦治子
生田長江先生と語る　西川文子
小供の日記　西川文子

談話室

婦人雜誌の口繪(村井夫人談)○江木文庫(一記者)○田舍の婦人(相馬御風氏談)○芝居ずき(長谷川時雨女史談)○露西亞の婦人(瀨沼夏葉女史談)

熊本より　林琴子
懸賞募集
表紙意匠、トビラ　渡邊文子

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◀新らしい人のための新らしい書▶

佛蘭西閨秀作家ジヨルジユ・サンド原著
法學士 渡邊千冬先生譯

（小說）

魔ケ沼

（口繪、本書主人公の肖像 岡田三郎助畫伯）

■四六判表裝優美■
■定價金七拾錢■
■郵稅金八錢■

婦人とはいかなるものぞ、神聖なる戀愛とはいかなるものぞ、知らんと欲する人々は本書を繙かれよ。原作の價値、多く云ふを須ゐず。

英國閨秀作家ジヨオジ・エリオット原著
松本雲舟先生譯

（小說）

アダム・ビヰド

ほんとうに新らしい女は、エリオットです。そしてエリオットの四大傑作の一つに數へられるのは、このアダム・ビヰドであります。

■四六判表裝瀟洒■
■定價金五拾錢■
■郵稅金六錢■

座古愛子氏新著

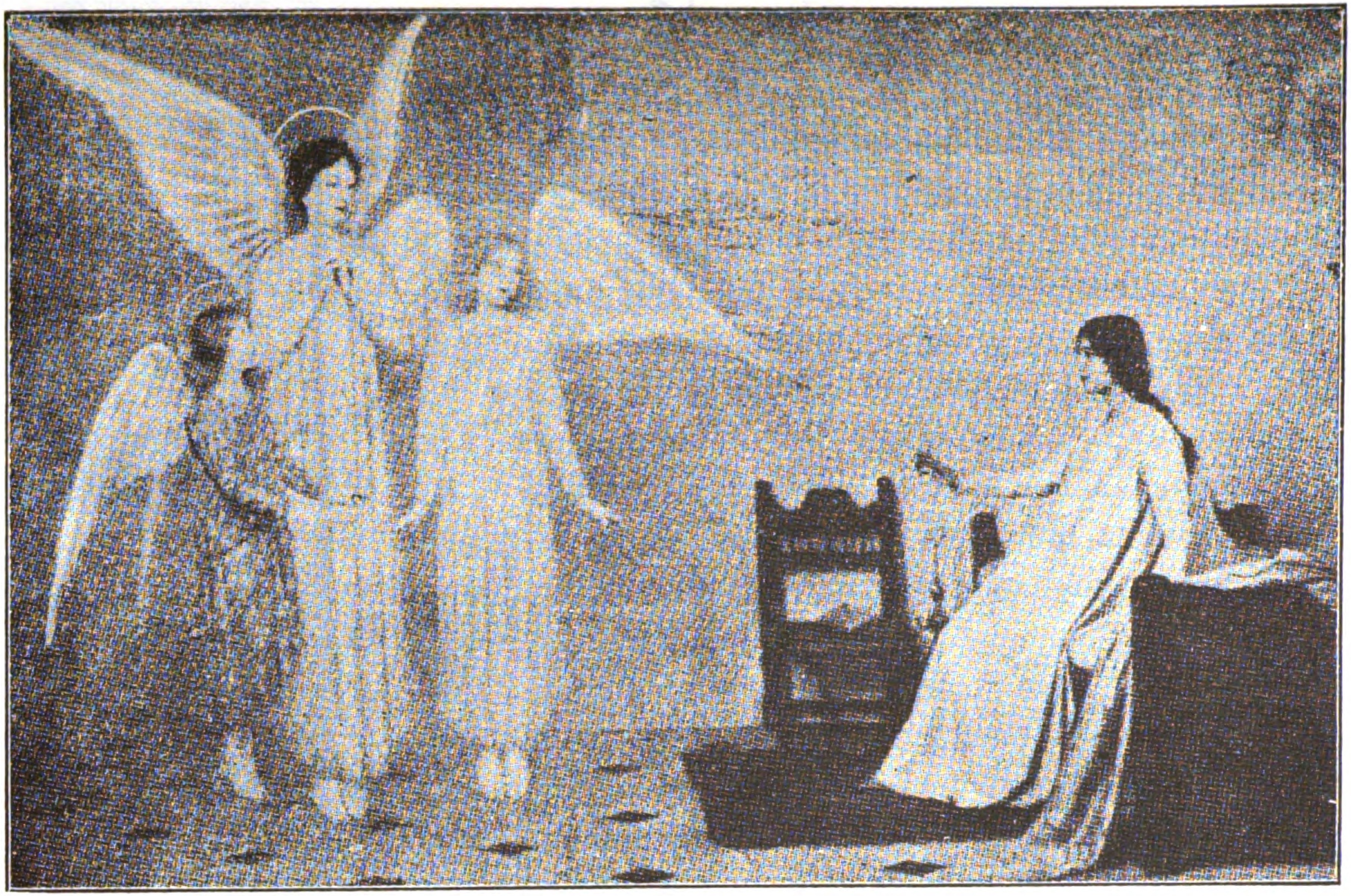
（新刊）

みつばさの蔭

「伏屋の曙」の著者、病才媛が心血を灑げる僞らざる信仰告白。

■定價五拾錢■
■郵稅六錢■

東京京橋銀座
警醒社書店
振替東京五五三番

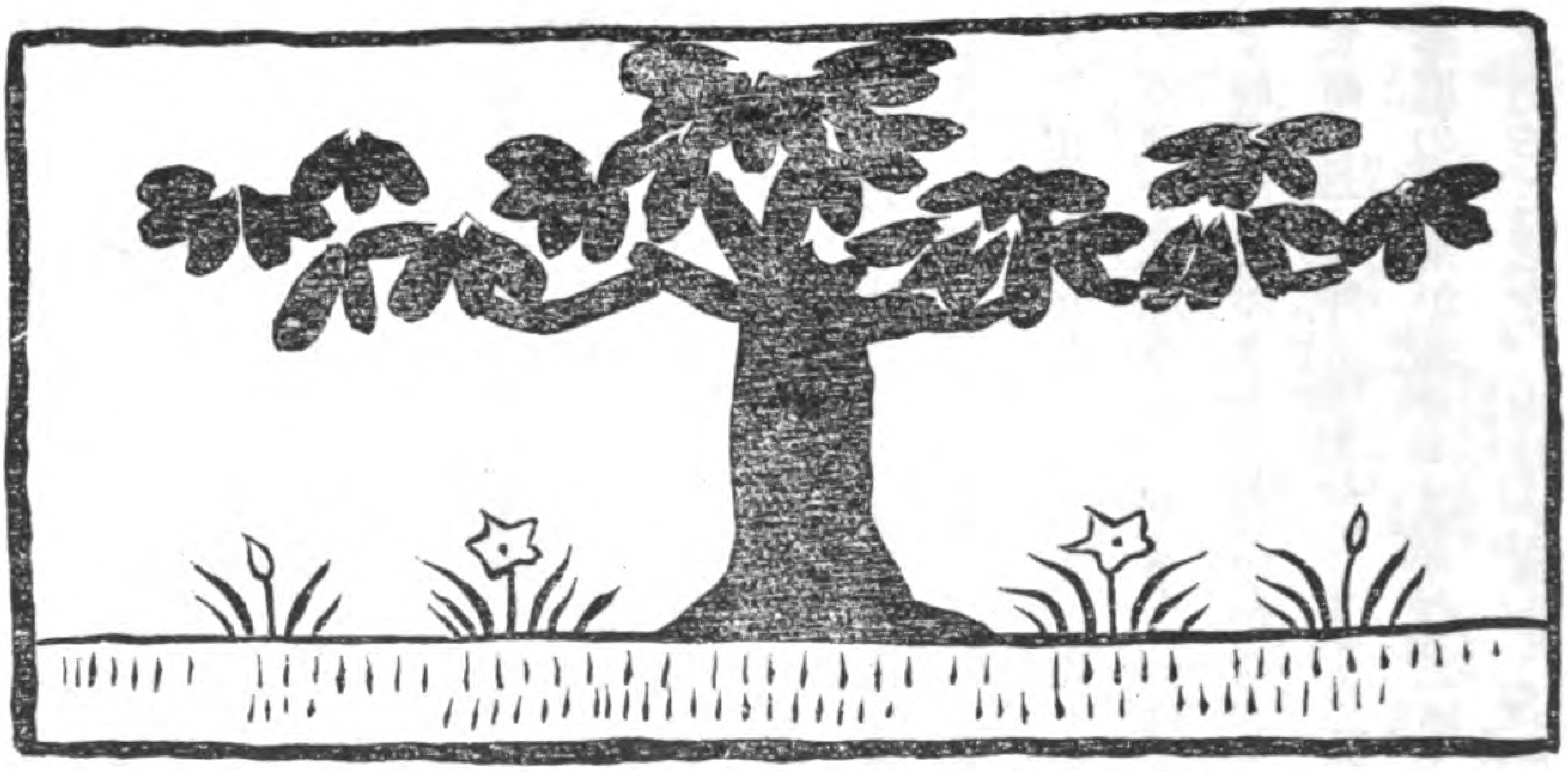


三人の天使は眞善美の象徴である。私共の覺醒の程度は、此の三人の天使を見ることの程度によりて判ぜらるゝのであります。

覺　醒

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



新眞婦人　　第一號

宣言

▲私たち銘々の心の奥底には、尊い眞な活きた者があります、この無限の潜在力をどこまでも發揮しやうと努力しますのが、新らしい眞の婦人の生活であつて私たちは自から之れに向て努力すると共に、また他の御婦人がたへも御勸め申したいのであります。之れが私たちが此の雜誌の發行を企つるに至つた目的であります。

▲詳しく申しますると、未婚の御婦人方には戀愛なき結婚をなさるな、婦人の人格を認めぬ男子とは結婚なさるなとお勸し、既に家庭の人となれる御婦人方には、モウ妻となり母となりては駄目ですわねと、消極的自暴自棄に陷ることなく、ドコまでも積極的に行く樣にお勸し、更に女に對する社會の感情を一掃し、自然にあるべきよりも狹められたる婦人の活動の範圍を廣くすることに努力するのが卽ち本誌の目的であります。

▲尚、女の手のみにて編輯し、經營し、直接には少しも男子の助力を仰がぬと云ふのが、本誌の一つの特色であります。婦人の位地を高める爲めに、婦人自からのみにて、雜誌を發行することは、日本では之れが最初の試みでありましよう。世の姉妹達よ、願はくば相應の力をお貸し下さい、共に力を合せて、多年「女に何にが出來る」と輕蔑し來つた男子を驚かせましよう。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女の不自由

西川文子

一

女は實に不自由なものです、第一に家庭の空氣が彼を束縛して居る。例へば女は獨りで勝手に外出することが出來ない、出來ないと云ふ道理があるでもなく、又してはならぬと云はれて居るワケでもないが、若し獨りで勝手に外出すれば、何んと云ふことなしに、姑や夫に悦こばれぬので、自然勝手に獨りで出歩きをしなくなる、即ち事實に於て女は家庭の空氣に束縛されて居る、何にも私は、自分が獨りで勝手に出歩きをしたいからコウ申すのではありませぬ。一寸外出するにもコウ云ふ風であるように、家庭の空氣が却々一通りや二通りでなく女を束縛して居ることを、申たい爲めに、外出のことを例にしたのに過ぎない。

第二に社會の感情が、まだナカ／＼彼を束縛して居る。男がすれば、何んでもないこと、若しくば寧ろ褒められる事でも、女がすれば直ぐ惡く云ふ感情がまだナカ／＼殘つて居る。理窟を云へば、道理に二つはないのだから、男のしてよいことは、女もしてよいのであるが道理以外に別の感情があつて、だ／＼濃厚に女を取捲て居るから困る。

例へば獨身主義の如き、理窟から云へば、皆が皆獨身主義になられては困るにしても、或特種の場合、特種の人が獨身で居たからとて何にも惡いことはない。されば男が獨身で居ても、若しくば獨身主義を唱へて居ても、誰も別に惡くは云はない、イヤ褒め

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る者さへもないことはない。然かるに女が獨身で居たり、若しくば獨身主義を唱へたりすると、一も二もなく惡く思ふ感情が、まだ〳〵ナカ〳〵社會にある。之れはホンの一例で、女のすることには殆んど一ち一ち、道理とは別な、社會の感情があつて女を束縛して居るから女は實に不自由なものである。

某夫人は、或時私に向て「昔の婦人は女だからソンナ事をしてはならぬ、コンナ事は惡いと云はれたが、今日ではソンナ壓制はない、もしあつた所で頭からソウ云はれるのならば、イヽエ女でもいたしますと云ふ事も出來るが今日ではソウではない、貴女の人格にかゝはるの名譽に關するのと、友人とか先輩とか云ふ美るはしい名の下に親切に忠告されるのであるから、今日の婦人は實に眞綿で首〆めらるゝ樣に苦しい。忠告して下さる人も眞に親切に思つて下さるのだから、自分を犧牲にしても從はねばならぬ、之れが眞に恐ろしい」と嘆せられたが、實際何によりも感情の束縛が恐ろしい。

第三に女自身の思想が大に女を束縛して居る、今の女の多くは、永い間、壓制され、卑屈にされて來た結果として、何んだと云へば「女ですもの」と云ふ樣な、自から自分を劣等視する考へを以て居る。夫を主人と云ひ、旦那樣と言ひ、自分を妾と云ふ樣な奴隷根性を以て居る。此の思想がドレ丈け女を不自由にして居るか知れない。

二

さて何時までも斯くの如き不自由の下に滿足して居ることは出來ないから、近頃婦人が何んとなく現狀に安んじなくなつて來た。早く此の不安の狀態から婦人を救出し、女を自由ならしむるにはドウすればよいか。

第一に女自からが自覺し、女の胸にある女の爲めにならぬ思想を捨てねばならぬ、此の思想の捨てられぬ限りは、女は何んとしても自由にはなれぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第二に女は一般女性の代表者として夫の前に立てりとの自信がなくてはならぬ。或男子は自分の妻君がボンヤリして居るので、婦人と云ふものは、理窟の到底分らぬものだ、自分は今の妻が死んだとて決して夫れ以上理窟の分る婦人を貰ふとは思はぬと云つた。之れは可笑しい話でも何んでもない、正しく此の通りに男は其の妻を通して一般の女性を見て居るのである。さればコヽに夫がドンナ我儘をしても不品行をしても、辛棒して居る婦人があるとすれば、其婦人一人の我慢では濟まず、男子をして一般の婦人と云ふものはコンナものだと思はしむる基となるのであるから、私共は婦人を輕蔑し、婦人を侮辱する男子は夫と雖も、充分責めねばならぬ。女に此の自信が出來れば、女は自由の身となることが出來る。

第三には社會の感情と戰はねばならぬ、道理にはドコまでも從はねばならぬが、道理以外の別の感情、之れには飽まで反對せなくてはならぬ、默從して居ると、感情の束縛から何時までも脱却することが出來ないから、社會がドウ思ふと、道理の命ずる所に從つて直進すると云ふ勇氣が女にあれば、女は確かに自由になれる。私共は婦人の爲めに盡さんとして立ち、女ばかりで此の雜誌を發刊したのです。右は其の主張の一端で、之れから毎號、ボツ〳〵思ふ所を申上げます。

婦人の覺醒

これまでの婦人はたゞ流行を追ふと云ふ丈であつたが、おひ〳〵婦人も自覺して來て勉強したり、讀書したりする樣になりましたのは結構です、私もこれから婦人を眞面目な方に導く爲めに月に一回位婦人向の讀み物を出版したいと思つて居ります。（山縣悌三郎氏談）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

逝きし子よ

小口みち子

かたまりはよく笑ひけりころ〳〵と
いづくへやらむころがりて去り

白はちすあと云ふ間なく忽ちに
くづれて散りぬ夢を見しかな

國凡て喪にこもる春あまりにも
汝は凡婦が生みにし物が

鐘はなるやよひの末の夕まぐれ
障子もあけず去り行く我が子

汝はむくろくづれて骨となるまでも
母よ抱けともし云ふならば

父母に鎗の穗なげて行くからは
あらはに云ひて諾はさせよ

汝が友の犬や兎や鳩ぽつぽ
みな喪にこもり聲たてずあり

「狂ひ死に」これは張る乳おさへつゝ
み墓詣づる母のする業

汝によりて得たる貴き母と云ふ
扶持にはぐれて浪々をする

日記を見る總子の文字のなき日など
もしありなばとくりかへし見る

憂を同じうせるある人に
君が子は百合の花にて其はなに
きすしに行きし蝶なりし我子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚道徳、戀愛道徳の批評の批評

西川文子

エレン・ケイの結婚道徳、戀愛道徳に就ての見解は、要するに、

男が自分の愛せざる女と結婚するのは罪惡である何の樣な事情が有らうとも、愛がなければ結婚してはならぬ、女とても其通りで、自分の愛せぬ男と結婚するのは身を捨てるのである、双方の相愛せぬ結婚は行うてはならぬ、戀愛より出づる結婚で無ければ決して眞の家庭を爲さず、決して幸福を生ずる者ではない

と云ふにあるのです。黒岩涙香さんは之れを批評して、

△戀を省略して結婚した男女の間に愛が起るか否か凡そ是ほど愚かな疑問は又と有りますまい。日本は幾千年の昔しから戀を省略した結婚を行ふて來たので有りますが大抵の夫婦が相愛して居るでは有りませんか

△人生には、愛の外に「義務」即ち「務め」と云ふ者が有ります……結婚とても此の務めから割出す可きか、戀愛より割出す可きかと云へば無論此の務めから割出さねばならぬ。

と云うて居らるゝが、私は此の黒岩さんの議論には賛成することが出來ませぬ。成程、戀愛を省略した結婚にも、結婚後愛が生じた事實は澤山あります。併しソレは女今川式に教育されて、何んでも親の善いと云ふ男と目をつむつて結婚するのが、女の道だと云はれて居た時代にあり得た事實です、今日もソ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ウ云ふ事實があらうが、ソウ云ふ女は大正の今日に生れて居ても其人の頭は三百年も四百年も前のまゝなのである。今日の自覺した女は、トテもソンナ事は出來ませぬ、戀愛なしに結婚せよの義務で結婚せよのと、誰れから云はれてもソンな事は出來ませぬ。之れは女ばかりでない、昔の男、若しくば女を弄ぶ考への思想の男の外は、知りもせぬ女と結婚は出來ないでしやう。

藝者買をしたり、娼婦に戯れたりしたことのある男は、キレイな女でありさへすればよいと云ふ考へがあつて、知りもせぬ女と直ぐ親しくなれる。併し正直な眞面目な男はソンナことは出來ぬ。女もその通りで泥水稼業の女か、人形の樣な女ならば、知らぬ男と、或は利慾の考へから、或は又親の命令によりて、一緒になれるでしやうが、自覺した女はソンナことは出來ませぬ。

黒岩さんは又、結婚も一種の職業であると云ひ、既に職業であるから、義務に醒めたる冷やかなる判斷から出でねばならぬと云つて居らるゝが、職業と雖も世人の多くは決して所謂醒めたる冷やかなる判斷でのみ撰んでは居らぬ、誰れしも趣味から職業を撰で居るのではありませぬか、況んや結婚に於てをや、結婚は斷じて義務では出來ませぬ。矢張り趣味で判斷せねばなりませぬ、此の場合趣味卽ち戀愛であります。

黒岩さんは又痴情、痴情と云つて戀愛卽ち痴情と解して居らるゝ樣であるが、戀愛が病的になつて痴情となることあれど、戀愛の全部が痴情でも盲目でもありませぬ、戀愛の中に宗教もあり、智惠もあります、愛は智惠以上の智惠たる場合が、人生には往々あることではありませぬか。

六十の經驗から云ふのぢやと云ふ、親は青年のドノ點を見て、此の男は娘の夫として不可ないと、云ふのであるか、娘は何によりて自分の將來の夫たる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

べき人を撰ぶか、而して常に父の判斷が正確で、娘の戀愛よりの判斷が不正確であるか、父の目には盲目と見ゆる娘の戀で撰んだ青年が三國一の婿君である場合が多く、冷かな父の理性の判斷で撰んだ婿が成程娘を餓やしはせねど、娘を泣かす場合が多いではないか。

戀愛で結婚した女は、物質上困る場合がある、ソレで世の父兄達からは、氣儘なものは此の通りだと云はるゝ、けれども女自身は質屋通ひをしながらも滿足して居る、お粥をすゝりながらも笑つて暮らして居る、之に反し親の眼鏡で結婚した女の多くはドウです、金殿玉樓にありても、人知れぬ所で泣いて居るではないか。

親の理性の判斷が、娘を一生不幸にし、娘の戀愛の判斷が娘を幸福にして居る、愛は諸ろの智慧よりも、智なりと、私は信じて疑いませぬ。

終りに尙ほ一言黒岩さんが擧げてある

「戀と愛との說明」

「吾々が平生愛讀する雜誌の出版日を待兼ねるのは、「戀」で、愈々其出版され自分の手に受取れば最早戀ひ焦れはせぬ。唯だ嬉しがつて愛讀するばかりであります、これが一種の愛であります、何でも人間の待ち遠く思ふ間が戀で、手に入れて嬉しいと感ずるのが愛である、其の物の如何には關係がない、愛は心であつて物ではない、骨董品に戀するのも、美味しいお菓を戀するのも、燒芋を戀するのも戀しい心に違はない、詰る所戀と云ふと美くしいが、一種の「慾」に外ならぬのである。

美術的藝術的とか云ふ幻影に誤られずに哲學的解釋をせねばならぬ、エレン、ケイ女史なども斯かる事柄を論ずるならばモット廣く、冷靜に哲學的の考へを以て欲しい、惜しい事には、女史は「戀」より外のことは考へて居られぬ。

との言を批評しておきたい。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

黒岩さんのお說の通り、戀も物質慾と同じだとしても、讀みたいと待つて居た雜誌ならば愛讀する事も出來るが、少しも見度くないものを手に入れたからとて何の興味が起らう、文學趣味のある人に、政治經濟、法律の書を讀んで見ると面白くなつて愛讀されやうと云つたとて、ソレは六つかしからう、美味しいお菜でも自分の嫌いなものならば、不味くても好きなものゝ方が賞味さるゝであらう、結婚もソレと同じく戀なくして結婚しても都合よく愛の起るとのみは限らない、たま〳〵愛情こまやかに、夫婦むつまじくなる家庭があるからとて、それで一般を推して論ずる事は出來ぬ、ソレは善良なる君主の出た場合には專政々治でも甘く行くから、專政政治が立憲政治より善いと云ふのと同樣である、ソウでない場合の事も考へねばならぬ、昔から戀愛なくして結婚して何としても愛情の起らぬ場合、多くの男子は外に妾を蓄へ、婦人は化石となつて人生を果敢なく過したのである、普通の場合、公平に考へて君主專政よりは、立憲政體が優れる如く、戀愛なき結婚より戀愛による結婚が精神上幸福を來たすのは論をまたぬのである。

俳句

龍子

なの花や狐に礫うちてゆく
つくしつむまに白帆ながれけり
たび繪師の筆のにじみや春の雨
初東風の筑波になびく柳かな
つばくろや桃の里とふ京染屋
桃一木柳一木や門の春
小鳥きて水あむ池や風ぬるむ
あひるよぶ女房の聲や春の暮
鷄や若葉の中のはねつるべ
十萬の蝶江を過ぐ春の風

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女性の自覺

宮崎光子

婦人が若し物質から受くる滿足のために、自分は幸福である、此の上もない仕合せと思うて居る人がありますならば、誠にお氣の毒の至りであります、そういふ物質上から受くる幸福は、人間としての眞の意味の幸福ではありませぬ。

物質上の幸福から云へば、動物園に畜うてあるいろ〳〵な動物は、或階級の人間よりは仕合せと云はなければなりますまい、牛肉だの、肴だの、野菜だの、其好みに應じて食べさして貰つて居る、然かも人間より叮寧に贅澤に附與されて居る、けれども彼等はやはり動物に過ぎないではありませぬか、如何に牛肉を食ひ肴を喰うたからとて、動物は動物で何うすることも出來ますまい、人間は何んなに零落をしましても、困窮をしましても、よしや飢ゑ死をしましても、立派な人間に相違ありませぬ、人間の人間たる處は、身體でなくて實に精神に存するものであります。

それでありますから、人間としての眞の幸福は、この精神の向上と修養の努力によつて、其各々の人格を造りあげるにあります、其精神が身體上の慾求を適當に制節して行くところに、美はしい調和があるのであります、倫理道德と申しますのは、即ち其ことをいふのであります、そこで倫理を無視した處に、人間の價値は無くなつて了ふのであります道德を無視した處に、人間の美は、消えうせて了ふのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それで人間の價値は、大精神の煥發する處にあるのであります、大精神が身體を自由に動かし、向かはしむる處にあります、孔子が、心の欲するところに從ふて倫を越えずと云はれたのも、制節の度合が、その調和を得たる心持を申されたのでありませう、精神が主人となつて、肉體、慾求を自在に節制するのであります。

それで肉體の滿足から來る幸福は、動物的幸福であつて、人間的幸福でない事が解かりませう、一度び精神的に人間的に醒めて來ると、富貴とか、榮華とか、權勢とかゞ餘り難有く無くなつて參ります、トルストイが名聲赫々たる文豪でありながら、また相應な貴族でありながら、社會から遁れて田舍に引込んだのは、彼が從來の生活が、何等人生の面目に觸れて居なかつた、表面の淺薄な生活であつたことに心附かれて、非常な煩悶の結果、漸く一つの遁げ場所をヤスヤナポリヤナに見出しました、其後の彼の生活は、誠に純朴な、質素な土百姓の生活でありました、そうして彼は神と親しんだのでありました。

それにくらぶると、現代多くの文士たちが、生かぢりの文學をかきちらして得意になつて居るのは、深い勘考をして貰はなければなりませぬ、甚しきは歐米文藝の皮相ばかりを丸呑にして、自己の生活その者とは沒交渉になつた、模倣の文藝を書きなぐつて、恥ぢさらしをやつて居るのは、何と云ふ陋劣な振舞ではありますまいか。

文藝は、人生を縮寫したる(象徴)活ける人生、高尙なる生活の意義と、重大なる啓導の責任とを、美しい藝術の力によつて感得せしめる生命の表現でありませう。眞の人生を滅却したる處には、藝術の價値はありますまい、道德宗教の基礎に立つて現はれたものに始めて藝術の味ひが匂ふのであります、それでこそ才筆を縱横に振うて居つたトルストイも、人生の眞奥を伺ひ出して來ると、これまで好評を博

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して意氣揚々と、華麗な生活をして來た自分の半生が、風船玉のやうに全く空虚となつてしまつて、自分に潰れさうになつて了つた、彼は茫然自失したのでありました。

そうして眞面目な探求の精神となりまして、人生の眞義に觸れやうとした時は、儒敎の方で云ふと既に五十にて不惑の年でありながら、彼は始めて惑ひ出したのでありました、醒めたる後の彼の精神は、一般人類の覺醒を思ひ、幸福を思ひまして、あらわされたる書册の中の革命的精神は、露國政府も、如何ともすることが出來ませなんだ。

これは男子の覺醒で然かも老人の覺醒でありましたが、婦人にして然かも妙齡の少女の覺醒を申して見ませうなら、佛國のジャンダークの勇氣に於ける、身命を顧みずして故國の危急を救つた、彼の熱誠は如何でありました、名前を忘れましたが、彼のファザー、ダミエンの後にモロカイ島に赴いた某婦人の如き、自ら癩病患者の看護婦慰安者となつて、終生をこのみじめなる看護事業に獻げた至誠、然かも身は相應な富家に生れ、何不足のない豐かな生活のうちに、多くの侍女にかしづかれ蒲柳の身を以て、猶且つこの忌はしい、怖ろしい、並々の婦人は身の毛のよ立つやうな癩病人の悲慘を思うて、我事業はこゝにありと、覺悟を極めた彼の女の崇高なる感情は、弊履の如く己が身邊の一切を棄てゝ、雄々しくも猛然と立つた彼の女の風姿は、天女の化身か、佛神の權化かと思はるゝばかりの愛ではありますまいか、慈悲と云ひ博愛と云ふのは此の精神を云ふのであります。

ナイチンゲールの赤十字の創立は如何でありませう、彼我劍を磨し、砲を飛ばす戰鬪の中にも、天女の慈悲は何所までも行ひ遂げらるゝ餘地がありまして、一旦負傷するや、敵味方の差別なく、叮寧に親切にいたはり介抱をいたしました、赤十字社の事業

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は、人類としての解決から現はれたものであります、それで其事業は、單に戰爭の局面や、軍人遺族の救助ばかりではありませぬ、一般の人類の救護濟生が目的であります、つまり宗教の實際的運動であります。

犬や猫などの群れの中に、若し一切れの肉を投じましたならば、爭ひ鬪うて、己れその肉を喰はんとしてたけり叫ぶ有樣を見て、人は笑ひませうが、彼等犬猫は、己が生命とする所は、からだそのものでありますから、肉を喰ふと云ふことが彼等獸類に取つては、第一義の道德であります、獸類にとつて肉を喰ふと云ふことは第一の要件であります、生そのものゝ第一義でありますから、獸類の道德であります、人間の第一義は衣食ではありませぬ、利害ではありませぬ、物質以上の精神の要件が第一義であります、精神上の滿足が、人間最大の滿足であります、精神上の慾求が人間最高の慾求であります。それでありますから、精神的の憧憬が深刻になればなるほど、偉大な崇高な解決が來るのであります。

我等の精神は無限に向上し向上して、生の發展を要求するのであります、生活とは、即ち精神上に於ける慾求の活躍を云ふのであります。精神の活躍は生活といふ無限の舞臺の上に發揮するのであります、私たちは皆悉く、生活といふ大舞臺に躍つて居るのであります。宇宙萬象一切は、その舞臺の背景に展べられてあるのであります、そういふ大きな劇場の中に、人間たる可き人類が、獸類の樣な眞似をしたならば、個體我の愛着にのみ執着して、自分の肉體を滿足にし、榮耀にして行くばかりに心を費して居ましたならば、犬や猫が、肉の切れや肴の骨を爭ふよりも、更らに可笑な憐れな、さもしい淺間しい有樣ではありますまいか。

自由を叫ながら、肉の開放を主張する或種の人々は、犬や猫の叫び爭ふのと同ではありますまいか、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自由開放の意義を肉的方面に誤ると、反つて獸類よりも墮落するものであります。大精神から現はれた自由でなく、肉體から要求された開放は、我まゝの放縱的墮落でありますから、自由どころでなく、實は甚だ不自由極まつた幽囚閉門となつて了ふのであります。

　そこで婦人もほんとうに醒めて、女性としての人類の價値を發揮することにしなければなりませぬ、進んで、婦人自らの自覺を啓かねばなりませぬ、男子に神たるの自覺がありますならば、婦人もやはり神の自覺が開けねばなりませぬ、自覺すると云ふことは、決して婦人が男子と同樣に、參政權を得るとか、職業を得るとか、位置を取るとか、主人公になるとか、そう云ふやうな事よりも、先づ第一に婦人の人格が高まりまして、つまらぬ虚榮だの、虚飾だのを斥けて、精神上の崇美を發揮さすことであります、精神の崇美に憧憬し憧憬して、無限の向上に對した精神の表現的生活が、眞に自覺をした婦人であります、眞に人生を解決した婦人であります。

自覺をした婦人は、美しい衣物を着たり、甘い食物を食べたりするよりも、それを人に施す所に、無上の悦びを自身に感ずるのであります、自分一身の滿足を得やうよりも、社會多數に滿足を得させたらと望むものであります、喜、怒、哀、樂は、自分一人の勝手氣儘でなく、實に萬人の爲めの喜、怒、哀、樂であります、萬人の喜憂のために何事もすると云ふやうな氣分であります、進んでは、自分の一切を犧牲にしても、之を成就しやうとするものであります、それが段々と向上して、高潮に達した有樣を申しますと、猶太の基督は、十字架を脊負うたその教義を布かれました、釋尊は家を棄て、妻子をも顧みないで苦行林に入りました。

　誰か飽衣暖食して、人生の深奥を究むることが出來ませう、苟も救世濟民の事業は、燃るが如き、狂

ふが如き、至誠の熱火でなければ駄目であります。
現代の婦人は、まさしく酔生夢死の長眠から、蹶然として醒めなければなりませぬ、唯一の武器として頼み來つた容色は、はや地に落ちて其色褪せたのであります、身邊を飾つた一切の霓裳寶玉は、はや火中に投せられたのであります、惡魔は常に曉の春眠に乘じて襲ふのであります、醒めよ〳〵、現代の婦人、眞を尊ぶ婦人、靈を尊ぶ婦人、偉大なる生命は、卽ち自覺より來るのであります、一たび自覺してから混々と湧いて出る潜在精神の盡きざる泉は、深甚微妙の生命であります、凡ての價値は自ら爲す所に有るのであります、山海の珍味を盡した食膳も、これを喰ふ人よりは調理をした料理人の方が、より以上の滿足を得るものでありませう、美を盡し善を盡くした住居も、その主人公よりは大工の方が遙かに其妙快を感ずるものであります、美術や藝術に於ける作者のよろこびは、他人が知ることの出來ないものがあつて、滿腔の心血を絞つて現はした絕大の妙趣は、實に藝術家自身の偉大なる慰藉ではありますまいか。

斯くの如く婦人各々の人格の上にも、自ら啓發し、自ら修養して、自ら樂しむ精神的生活がなければ、眞の自由は得られませぬ、眞の幸福は得られませぬ、眞の幸福は、人間としての根本問題を解決した所から、その解決から生じた奮鬪と努力によつて、築き上げられた人格その者の中に存するものであります。

〰〰〰

啓上

皆様御機嫌よろしく候や。

私のうち七瀨と八峯とのはしかをはり候いしと同時に、また三人おなじやまひにかゝり申してせん方なく苦しとおもひ申し候。それらのためおやくそくの原稿もえさし上げず申わけなきことゝおもひ申し候。

あしからず草々

よさのあき子

西川文子様

口語詩

どうしやう

小供は死んだ
　眠つたやうな愛らしい
　　其唇さへ紅さして
人形のやうな顔形
　これを此のまゝ焼けやうか
　　　どうしやう／＼

冷たい手手を吾が肌に
　あてゝ温ーめ唇を
　　吻うて吹いて呼吸させて
閉ぢたる眼をつまみあげ
　昨日のやうに笑つたり
　　泣いたりさしたい
どうしやう　どうしたつても

木村駒子

返らない子のなきがらは
　其のまゝに
眠つたやうな顔形夢でありたい
　どうしやう

紅い着物

日當りのいゝ庭の中
　衣干すとて取り出せし
行李の中から紅い着物

ドット押されたやうな母の胸
　じつと眺めた紅い衣
　　あはれ亡き子の馨りする
誕生過ぎた今頃は
　もうトチ／＼と歩くだらう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

足さへすり〳〵出でて居た
此の身の丈のなつかしい

よくも似合うた友禅の
黒地に紅の薔薇の花
ほんに似合うたこの着物
いつでもこれを着て居たに

溢れし乳汁の薄白う
衿に残りてカメ〳〵と
あの柔らかな頤を
擦り着けたろこの着物

雪のやうに白い顔
ふさ〳〵と眉毛まで
長く垂した黒い髪
人形のやうに美くしい

黒眼勝に輝いた
大きな眼で見覚えて

私を見れば飛び立つて
抱つこしてよと言ふやうに

頭を上下に動かして
小さな両手をさしのばし
早やく〳〵と急くやうな
なにやら解らぬその言葉

女中もなくてその頃は
客の出入の忙はしくて
抱きも上げすそれなりに
オゝよし〳〵とばつかりに

待たして置いて立ち去れば
後を慕つて泣いて居た
つめたい畳に残されて
力なげにも泣いて居た

母のこゝろも心かは
相手の客のざれごとを

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にっこと笑つて受け流す
苦い盃子の泣く聲

客去ればホツと息つくまなく
抱き上ぐればいそ〱と
息をもつかずに呑む乳の
甘しそうに見えて居た

父に見らて叱られて
用言ひつけられ即刻に
せればやかまし氣短の父は
子ごころしらぬ若い父は

二時間あまりも待たされて
やつと今のみついたその乳を
ひきはなされたも幾度ぞ
短い糧であつたのを

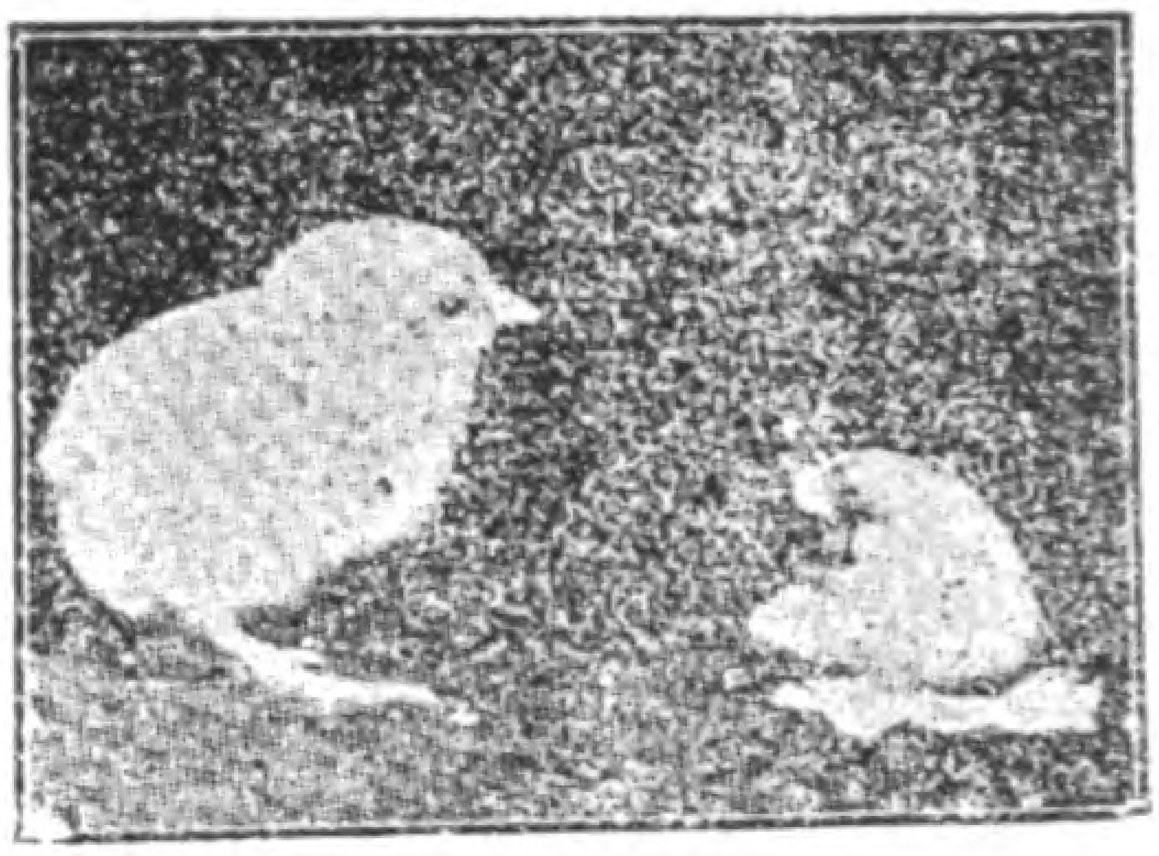
また夜毎には
ア丶丶丶丶丶丶丶丶

氣短の父若い父
幼き私が子よいとし子よ

思ひ出すのもいたましい
一とせあまりのかりの世の
汝が一生や—誰が爲めの
かくも可憐の短い生命

紅い着物は膝の上に
もぬけのからもなつかしい
思出多いこの着物
はなしがたない馨りする

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



短歌

龍子

打つれて春ないそがぬ旅なれや
　大和めぐりの若草の道

なつかしき春は桃さく古里の
　麥ばた青き川べりの家

雲走りかもめさわだち大海は
　あらしくらしも沖なりまさる

白駒のあがきかろらに君はやく
　青あらしふく朝の湖べな

東風ふけばみどりもゆらに水の郷
　七浦けぶるむら柳かな

打かすむ赤城榛名の山々を
　見つゝ芹つむ利根の河原路

海の風さや〳〵にふく南國の
　ザボンのかげな思ふ初夏

切りたてる峯すべりくる日の影に
　虹ふき上ぐる瀧のとゞろき

わき出づる泉の茶屋に瓜はみて
　越えこし峯をあふぐすゞしさ

しはどての夕をゆけばあししげみ
　大蟹小蟹そゝとかくろゝ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

上古の女

——(日本女性史の一)——

新眞婦人社編

史を案ずるに、上古にありては、全く男尊女卑の風がなかつた樣である。

上古の婦人は、現今の西洋婦人の如く馬の背に腰打かけて兩脚を一方に垂るゝ仕方で、馬に乘つたものである。ソレが天武天皇の十一年四月に

自今以後男女悉結髮……　……婦女乘馬男夫の如くす可し

との詔が出たので、其後は男子と同じく馬の背に跨ることゝはなつた。

多くの婦人が馬に乘つた位であるから、又元より戰爭にも出た。神武天皇東征記の中に

八十梟師の國見岳に據るや……女坂に女軍を備へて拒む云々……皇軍推根津彦の計を用ゐて先づ女軍を遣り、忍坂より出でしむ云々。

と書いてある。上古の戰爭には必らず女軍のあつたもので、コウ云ふ例はイクラもある。上古の女子は又、國土をも領有したものである。男で領主たるものはヒコ(日子又彥)と云ひ、女で領主たるものはヒメ(日女又媛)と云つたものぢやと云ふことがある。之れが啻に大和民族の間に於てのみならず、熊襲の間に於ても然かりしものと見え、景行帝熊襲征伐の條に

豐の前後州女人の領有たり、前州には神夏磯媛有りて一國の魁帥たり、後州には速津媛ありて地方の君長たり云々

と書いてある。當時土蜘蛛の間にも女の酋長が多く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あつたと云ふことである。
斯く女の中の才能力量あるものは、領主にもなれた時代のことであるから、上古に於ては女子も男子同様納税の義務があつた。
上古は祭政一致で、祭を大變に重んじたものであるが、其の大切なる祭を主掌するにも、男に限るの、女に限るのと云ふことはなかつた神に事ふる男をカンナギと云ひ、女をメカナギ又はミコと云うて、男女共に神事を掌つたものである。
私は煩を厭うて、細々と史實を列記しませぬが、右の如き事實を一見した丈けでも、上古に於ては全く男尊女卑の風がなかつたことが分る。子を産むと云ふ一事を除きては、全く男ぢやからの、女ぢやからのと云ふ區別がなかつたことが分る。
斯くまで活動の範圍の廣かりし女子が、ドウしてダン／＼其の活動の範圍を挾められて、遂に家庭に幽閉めらるゝに至つたか、徳川時代に於ての如き、女子は全く人情境界の外に置かるゝに至つて居たが、之れはどうしてこうなつたものであらうか。
又上古に於ては、戀愛も自由奔放なものであつたが、女子の活動の範圍が挾めらるゝと共に、男女の關係も極めて窮窟になつた、ソレはドウ云ふ順序を踏んだものであるか。
右の諸問題に答ふる爲めに、日本歴史を研究して筆を進め、傍日本歴史の上に現はれた女傑を評論し、最後に女子の將來にまで論及して擱筆しようと思ふ。尤も詳しく書いて居ては月一回の此の紙上では、一年や二年で完結に至ることが出來ぬから、此の紙上では大體の筋書き丈けに止め、詳細は書物として出版することにしようと思つて居ります。

▲歐米女子立身傳（根本正譯述）　文學者、講演者、演說家、新聞記者、理學者、著述家、教育家、政治家、慈善家、看護婦、小說家等として傑出せし婦人の傳記を集めたるものにて、極めて有益な著述である。男子に大志を懷く事が惡くない以上。女子にも大志を懷く事は罪惡ではない。（東京銀座　敎文館發行　四十錢）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男優りの女

黒光女史

社會にはマダ〳〵、女は下らぬとか、女は愚だとか云ふ感情がある、其の爲め『女賢しうして牛を賣り損ねる』とか、若しくば『牝鷄の政』とか、云ふ樣な言葉が、いまだに人の口に繰返されて居る。私は此の感情は間違て居ると思ふ。女だとて奮發すれば男と同じ力は充分出し得るものである。世に所謂『男優りの女』の尠なからぬのは卽ち其の證據である。左に少しく私の知れる『男優りの女』の實例を話しましよう。

一、東京で二番と下らぬ第一流のパンやとして人に知られた、銀座の木村屋の主人は家を外に遊んでばかり居る人だが、主婦の力一つでアレ丈けに手廣く、市中至る所に支店を見る程の盛況を現はして居るのである。

二、最中で有名な岡埜の主婦もナカ〳〵のエラもので、店の繁昌する大部分は其の力であると云ふ事である。小僧番頭に對しても、嚴しい事は非常に嚴しいが、其代り待遇も非常によく、もし落度過失があつて、普通ならば其まゝお拂箱になる樣なのでも、內證金や羽織の一枚も與へて出すと云ふので、店員は皆本氣に盡して居ると云ふ事です。

三、本所龜澤町の壽德庵と云へば、其界隈での繁昌する菓子屋だが、此の店も主婦が一人で切り盛りして居るとのことである。

四、信州松本にお綱婆さんと云ふ、待合の女將がある。此の女將は自分の情夫を代議士にする爲めに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一萬圓も費ひ、又自分の子飼の藝者を縣會議員や何にかに周旋して置いて、自分の婿であるから姑の云ふ事を聞かねばならぬと云うて聞かせ、往年長野の縣會で、藝者税を十圓に上げる決議をした時の如きは、お綱婆さん一人で長野へ出かけて行て一等旅館に陣取り、議員等を呼び寄せてトウ〳〵もともと通りに引下げさしたのである。此のお綱婆さんをして若し東京か横濱にあらしめたならば富貴樓のお倉以上の働きをしたであらう。

五、信州の或大製糸業者が或時組合員の集會の席上にて『自分は五百人程の工女を監督して居るが、之れを甘く監督して事なからしむるには非常な苦心を要する』と云ふ話を、詳細に物語つた、之れを聞いた一人の製糸業者は、自分の家には七百人の工女が居る。而して自分は外出勝ちである。云はゞ妻のみの力で右の七百人を監督して居るのである、何々さんが五百人を監督するに骨が折れると云ふに、妻は七百人を監督して、ガタツとも云はせない、して見ると妻はエライのか知らんと、玆に始めて氣が付いたと云ふ話がある。

右はホンの一例に過ぎない。廣く尋ねたらばコンナ例はイクラもあらうと思はれる、されば女だから役たゝぬとは言へますまい。（文責在記者）

* * * *

カフヱーの電話

小口みち子

銀座のとあるカフヱーの棕櫚竹の鉢植と、羅を張つた几帳めいた衝立の陰になつた卓子によつて、見るから鮮血でも滴り出そうな葉を持つた熱帶國から渡來した植物の鉢植を中にして、お浪さんと私とは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

向合つて腰をかけてからもう小一時間にもならふか。

珈琲は初めに運んで來たのが湯氣も香氣もたつて終つて水のやうに冷え切つた。

お皿のお菓子も一つの分を私がつまんで取つて見た計り、形もくづれないで盛られた最初のまゝである。

お浪さんは丁度今日の空模様のやうにたゞ〳〵氣の毒な程打ち沈んで終つて手のつけやうも何もない。

漆のやうに濃い髮は愈々艶やかに美しい。根がけにかけた古渡珊瑚とのうつりのよいのと、首筋の見事に綺麗なのとを私は繁々と見て居つた。味氣なさ、つまらなさ、と云つたつて、私はこんな陰氣な心持ちになつた事は近來餘りに例がない。抹香臭いお通夜の夜中だつても少しは賑やかな心持ちのする物だと思ふ。

此儘でいつまでも〳〵打ち捨てゝ置いて見るがいい。お浪さんは屹度それは見事に死んで終ふから。此弱々しい薄命な美人のお浪さんは慥か血を吐く病の系統をひいて居た。やがてお浪さんは痩せ細つてもつと〳〵美しくなつて、あの頰にうすら赤い血の色がほんのりとさして來て、やがては冷い石碑になつて終ふ其時になつて、初めて氣がついて男泣きに泣いたつてもう追つつく事ぢやない、今に思ひ知るがよいと私はこんなことも思つて居る。

今かうやつて二人がお菓子と珈琲を前にして向ひ合つて居る。これが二年前であつたなら、それは冗談ばかりを云つて私を笑はせて、さつさと好きな物から手をつけて、終ひには粉も殘さずにして空になつたお皿を眺めて、「何だかボーイの人達ちに極りが惡るいわね」等と云ふに極つて居る。いつか一度もカステラの喰べくらをしやう等と約束するにも事を缺いで、けれどもそれは實行はしなかつたが如何に移り變るが世の習ひだとは云ひながら、僅か

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二年足らずの間にかうも甚だしい變り方をする。未婚の時代にある年の若い女達の運命は實にはかない物の骨頂であらふ。私は思つて見るだけでも胸の切なさを切りに覺える。これ故に私は厭だと常に云ふのです。大方の女の歩いて行く道は大體に於て二筋あります。一生涯墓場の入口迄泣いて通して行く早い話がお浪さん一派の人達ちと、生一本の本來の自分で通して行くと云ふ勝氣の傑者は泣く更りとしてたえず戰つて居ねばならぬ。心には生々しい傷の絶間がない。女の身空で何でこれが眞面目の事であらふ。あれも厭これも厭だと云つて手製の誠にお粗末な假面を被つて育ち人の世の中を高飛車に威かしつけてやる。これも一寸痛快のやうではあるが芝居をするのとは違つて、大切な自分の一生を棒にふらねばならぬとなれば考へ物だと私は思ふ。近來兎角の評判の高い誰さんの身の上が卽ちそれだ、さて自分はどの道をどう辿つて歩いて行く心か、情ない事にはお先は眞闇でとんと少しも見當がつかぬ。

お浪さんは芝の唐物屋のひとり娘さんで明けて丁度一昨年になる、向島が葉櫻で賑ふ頃であつた。立派なお支度の行列を整へて、名うての看板娘であつただけに町内の門並に軒提灯を吊させたり國旗を交叉させたりして額には角かくしと云ふ物をして、雪と眞白い死裝束で門火に送られて親の家を出た。嫁に貰はれた當座こそそれはお羨やましい事づくめで内々は業を湧かした人もあつたとやらないとやらで大分噂も高かつたが、一年經つかた〻ないに件の通りに立派に人形扱ひにされて終つた。粋社會での通り名迄ちやあんと出來て居る耽溺派の頭領株のお浪さんのハスバントは、お孃さん育ちのお浪さんの三つ指よりも、四疊半の爪彈きの音〆めの方が、遙かに御意に叶つて居るとあつて、末の松山千代かけた三々九度の堅めのお盃事も、遊女の起誓と更に撰ぶ所はない。腐れ女郎を男で行くお浪さんのハ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

スパトントは口をきくのも氣持ちが惡るい、なるべく顔を合して貰ひたくはない。

柳の芽が恥かしそうに首をかしげて、街の群集を覗いて居る。外は雨になつたらしく蛇の目の傘を半開きにして、素足に黒塗りの足駄をはいて、小さな毛筋棒で兩方の髮尻を鳥の翼のやうに張らさせて錢湯に行く藝者や半玉の姿が硝子越しにちら〳〵見える。やがて時計が四時をうつ。

一臺の自働車が惱いと云ふやうな音をさせてこゝの入口に横着けにされた。中年の紳士と一人の藝者とが應揚に構へて這入つて來ると、急に全體の空氣が活氣づいて來る。ボーイの一同が揃つて來て挨拶をする。箱根へ一週間遠出をして居つたと藝者が云ふ、お浪さんが背ろにして居る電話室へついと紳士がはいつて行く。

ヘルオトロープの匂ひが、紳士の頭の毛の中からか、又は藝者のハンカチフの中からか、淡い夢のやうに漂ひまはる。

（番町の〇〇番）と呼び出す聲が、強いアルコールのトンネルとなつて、たゞれて居そうな紳士の咽から出る。

アッお前は誰だい私だよ私が誰だか分らない、困つた人だねお前のお邸の御主人だよ、ハハッ……分つたかい、奥さんに電話へお立ちなさいとそう云つて呉れ。

奥かい、どうも暫らくだつたね、やつと今新橋へ着いた計り、どうもいろ〳〵と出張先きで用事がこんがらがつて實に困つたよ、會社の用事がこれでやつとすんだと思つて一息吐くと、急に腹が空いて終つてね、これから直ぐに歸ります。御馳走をどつさり支度をさせて置いて貰ひたいね、それぢやさやうなら、あゝそうだね三十分計りすると歸ります、今友人とコーヒーを飲んで居るチリーン。「オイボーイ、キユラソーを持つて來い。」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此所は決して無人島ではない、死なうか活きやうかと迄思ひ迫つて居るお浪さんと云ふ者も居る。それを慰めることの出來ぬ自分の腑甲斐なさに自分を呪つてやりたいと迄悶えて居る私と云ふ者も控へて居る。ボーイも居る硝子越しには自働車の運轉手も居る。

藝者と紳士とは態々椅子を並べて腰をかけて、さも睦しげに何やら囁き初めた。一週間箱根の湯治場へ行つて居たと云ふ。それで居て尚ほ此處でも辛抱強く、歡樂の夢の名殘のあとを追ふ、男と云ひ又女と云ふ何れはこんな手合ひの動物性の逸樂を、云はふやうなき淺ましい物と私は思つた。

「ね歸りませうよ」と無言の行をして居つたお浪さんは何を思つてか急に腰を浮かして立ち上つた。私も直ぐに續いて起つた、カフエーの角を曲らふとして。

「あれはね番町の〇〇男爵の御次男よ」とお浪さんは私に耳うちをする。

道理でこそ毎度〳〵新聞に艶種をお蒔になるのでお名が高い、お浪さんは實家の唐物屋のお得意先きとして、家庭の込み入つたいさくさ迄も委しく知つて居る。

それなら奥方は堂上華族の愛嬢で、貴夫人社會でも相當に其名の知れた方である。いつか何かの畫報でお目に懸つたことがある。お實家方の御紋のついた三枚着を召して、優雅の三十前後の氣品の高い方であつた。それに比べると思ひ切り下司張つた顏も藝も二の次らしい、桃代と呼ぶあの藝者――ボーイ達ちがそう云つて居た――のニキビの吹き出たおひがん花のやうな顏がをかしい程に見劣りがする、こんな女のために水仙の花のやうな奥方を電語口へ呼びつけて、烏を鷺にしてお終ひになつた男爵次男の人柄を云ひ知らず厭らしく憎らしい物と私は思つた。そんなことは素より御承知の筈はない、いそ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

〳〵としてお臺所にゐらして、あれこれと御指圖に忙しく急に瓦斯が青い炎をふいて、仕出屋へ電話がしつきりなしに御用を勤めるお邸の有様等も目に見へるやうで……

カフヱーの電話はお浪さんの心に急變なる動搖を起させた。

男はみんなあーした物、私一人が忍ぶ苦勞ではない、今一辛抱して見やうと云ふ、ふいと其氣になつて見たお浪さんは、いそ〳〵として歩き出した。今度は私が少しくしぶくつて見たくなる。

お浪さんがこんな根底の淺い運命頓悟主義によつて、急に元氣づいて來たのを私は情ないと思つた。男爵の世子夫人もする辛抱故私もするなんて、まるで緣日商人の商品見たやうな「あきらめ」がそもそも何にならふ。

こんな有合せの賣藥がちよいときく程のお浪さんの病氣を、もつと重い大切な物のやうに取扱つて居た私こそよい馬鹿の標本であつた、實に惜しい事であつた、もつと出鱈目の氣休めを云つて小供を欺すやうにすかして慰めてあげるのであつたのに、今更取り返しが付ぬ事ではあるが、思つて見れば見る程馬鹿〳〵しくなつてくる。

今夜あたり茶屋酒に浸り飽きて、お浪さんのハスバンドがぶらりと歸つて來て、今の男爵次男の電話のやうに嘘八百を列べても、此分ではお浪さんは直ぐにぐら〳〵と動かされて終ふに極つて居る。

橋の袂で二人は別れた。これから顔を合せることが度々あつても、又口をきく機會がいくらあらふとも、二人は眞にこれが永久の別れであらふも知れぬお浪さんのうしろ姿を見送つてそれでも私は尙ほ思つた。

「男の腐れ女郎が眞人間になつて呉れる時がもしやあつたなら、どれだけあの可憐なお浪さんが喜ぶことであらうに」と、そうして私はほろ〳〵と淚をこぼした。『完』　大正二、三、二〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戀愛と自覺

木村駒子

序言

新らしい女とは如何なる女か?、世間に喧傳せらるゝ割に、之を深く研究し、之を説明して、その實質を詳かにしやうとするものは誠に尠い、只表面に現はれたる一擧一動を捉へ來つて輕々に評し去らず根本の思想に遡り精細に探らなければ、どうして其正體を知ることが出來やうぞ、現代の識者を以て自ら任じて居る人々でも、婦人に對してはまだ盲目であると斷言するを憚らない。無論極少數の學者は此點に稍考索を廻らして居られるかも知れぬが、滔々たる天下今尚婦人を一個の人格として重んじて居ない、近世の思想家の中にも、婦人は到底男子と同等でない確かに一段下つた者であると認められ、殊にシヨペンハウエルや。オットウ・ワイニンゲルの如き、厭惡し蔑視したものもあるが彼等は宇宙の核心に向つてこそ、その卓拔なる思索の手を突き入れたかも知れないが、女性の心臟に湧きかへる若き血潮を啜つたことはないのであろう、女尊男卑は騎士の遺風か男尊女卑は武士の餘波か、之は畢竟處世上の利權の上下で、價値の問題ではない、生理上の相異はやがて心理上の相異、其質に於て、或は男性より女性の優れたる點があるかも知れない、私は深く嘆く、女が非常に美はしい、優れたる特性を本來具備して居て、束縛と壓制にその腦力その才能を銷磨される

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことの殘念さよ、私は彼の太陽の象徵なる久遠の女性、日本民族の祖なる天照太神が天の岩戸を打開いて、常暗の國を照らせる如き態度を以て、現代思想界の暗黑を打破し女性の光明を發揮せんとするもので、是私等新眞婦人の使命である。かゝる確信の下に戀愛と自覺とを研究して見たいのである。

戀愛の種類

戀愛にも種々の種類がある、同性の愛、異性の戀戀を戀する空想の戀、其他名を附すれば、種々あろうが、私は之を三つに分けて、詩的戀愛、社會的戀愛、神祕的戀愛とする。

詩的戀愛

詩的戀愛は青春の花と共に香ふ、感情の純なる高潮、沙翁劇に現はれたるロメオとジユリエツト、親と親とが怨敵たる中をも顧ず、一目見て、若いこゝろは抱擁した、抱擁したこゝろは身をも包む、あらゆる迫害はその障壁たるにあまりに弱い、墓窟は遂に結婚の庭となつた、西鶴は云ふ、時鳥の總鳴きに鳴くあはれお七は十七の夏の姿、吉三に燃ゆる戀の炎は寺を燒き、家を燒き、艶なる髮も白き肌も、こころも魂も燒き盡した。

社會的戀愛

之は智識の發達した中年時代に起る一般的戀愛、理性的戀愛と云つた方が適當かも知れぬ意識が複雑になつて來ると純なる戀に醉ふことが出來ず、智識慾を滿足させる學術とか才能とか或は手腕だとかを有てる男子に自己の憧れて居る精神を結付けるのである。卽ち理想の良人を見出して、その人と結合せんことを努むるのである。私の知つた人で、親の命に從つて理想の良人を棄て物質に富んだ所に嫁いだが其結果は金色夜叉のお宮のやうに、病みつかれの身體を父の許に投げたが昔を今になすよしもない、今一人は反對に、理想の人と添ひ遂ん爲め、父の命に反きて家を出で諸有辛酸を嘗めたが精神的の勝利

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は遂に社會的の勝利を伴ひ、怒つた父も初孫の笑顔に征服されて了つた、自由結婚は眞理であるのみならず其結果は幸福である決してその結婚は墓場に入るに非ず光明界の扉を開くので自己を發揮する舞臺の序幕である。卽ち周圍の迫害を壓倒して社會的勝利を得る所に價値がある。

神秘的戀愛

宇宙の運命を超越せんとする宗敎的戀愛、ワグネルの樂劇、彼のエリザベエトがタンホイゼルに對する愛、ヴキナスの山中に入つて、肉慾の快樂に耽つたタンホイゼルは人の世の清淨な戀のなづかしさに還り、ワルトブルヒの春の谿間、かげろふ燃ゆる若草の中に、戀の昔の清淨を思ふ、神に代る羅馬法王さへ赦し得ざりし肉慾の汚れは、貴き處女エリザベエトのその美しき、身に代へての靈の淨めに救はれた、彼女の崇高な白衣の姿は靑白き月の光に照されて、燃ゆらんずる紅葉の秋の谿間の泡沫と消える、美しき心靈は一切を淨化して聖母の許に上つたのである。アルノの河の川添ひに見し若きダンテの戀の夢は、淨罪の境より、至上の天國に導かるゝの緣を結び、靑い花とし現はれたソフイの姿は、ノフワリスがロマンチケル文藝の精となつた、一切が皆無かのブランドが暫したゆたふた世上の戀、運命は彼を中間に留めず、一切を奪つて氷山の雪崩に埋む。

さて私が此等の戀愛問題を提供する理由は、戀愛が如何に深酷なる意義を有するか、如何に人生を支配する力の大なるかを示さんが爲め、戀愛を考ふれば直に女性の自覺と云ふ問題が起る。

自覺の源泉

自覺を簡單に說くと自分を捉へること、自分を知ることである、古希臘デルフオイの宮のアポロウンの神託に「汝、自らを知れ」とある、恐らくはこれが自覺の本源であるかも知れない、自覺は何の考へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

も何の煩ひもない人には起らない、考へる、煩へる此の心的狀態は戀愛に依つて初めて惹起さる丶、勿論讀書による場合もあるが、それはその書の著者自身の自覺で、各自異つた凡ての人々の細き要求に適合することは難しい、自覺は個人的で且つ自由であるが故に、自覺した人が舊思想を打破して、時代思想を攪亂するのもそこに原因するのである、自覺の源泉は人心の奥に何物にか憧れて居ると云ふ所から發する、この一念は如何なる大哲學者であれ、大宗敎家であれ乃至大科學者であれ、終生斷つことの出來ない自然の發作であろう、プラトウンのイデアを憧る丶心こそ、哲學的戀愛の初めかとも思はる丶、この憧る丶心が自覺の初め、戀愛の發するものと宗敎の起る源である。文學であれ美術であれこれなくて何の光輝ぞ、これなければ、人生は枯野である。若讀者の中に戀の爲めに苦み戀の爲めに戰つて居る人があるならば其人は幸である。若し唯一の人を得ない時は一切の男子を棄て丶一生獨身で暮す覺悟を以て戰はねばならぬ。戀愛なき結婚それこそ不義である、姦通である邪淫である、女性の有する無上の權威は戀愛より起る力である此力を以て婦人の位地を高め婦人問題を解決しなければならぬ、此力に依つて自覺し自己の宗敎を創造しなければならぬ。

戀愛と節操

道德と云ふものは其時代々々に適應するやうに人間が定めた社會の約束である以上、時代の變化と共に變るのは論を俟たない。

戀愛の眞意義を解しない人は所謂現代的墮落をする、自覺した女性は非常に自尊自重の心が起つてくる、肉の自由開放の如きは夢にだに思ふを許さぬ、彼の親の爲め、甚だしきは良人の爲め自己の肉體を提供して「犧牲」と云ふ憐れにして而かも怯懦な、自らを欺いたる小安に住して、悲劇的女主人公をきどる破廉恥の女に至つては誠に沙汰の限りである、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あゝ「犠牲」この言葉程奴隷的な卑劣な誤解を人心に與ふるものはない、自尊自重の心に誠の貞操が宿る、過去の婦人は唯かくあれと他から強ひられて形式的に無意識に之を守つたに過ぎぬ。今の所謂新らしい女は唯此因習的な形式を打破つて見たが何等の適歸すべき信念を持たないから、芳烈な酒を飲んで一時的な神經の亢奮を味つてその氣分を喜んだりなんかする。彼等は未だ戀愛の洗禮を受けて居らぬ男性の雄々しい英靈の味を知らぬ。眞の新らしい婦人は自己を重んずる中心より壯嚴なる貞操の觀念が起る、奴隷的因習的の貞操を遠く超えて帝王的創造的貞操の權威に住するのである。

女性の悦樂

女性中心の悦樂は虚榮の滿足に非ず、孤獨の空寂に非ず、誠に男性の英靈に身も靈も征服さるゝ事である、けれども私等自覺した女性を征服し得る男子が現代に幾人あろう、現代の男子は潑溂たる男性的精氣に缺乏して居る、況んや崇高なる英靈をや、彼等に自尊の貞操なく、彼等に清淨の肉體なし、古の騎士或は武士の面影を何處に見出し得やう、眞の宗教的英靈に到つて將た現代に何人を推讃しよう。

戀愛と性慾

女性の精神慾に對して現代の男子の貧弱なるは先にも云つた、荒れたる頭腦の現代人は、女を一塊の肉とより外に見ことが出來ぬ直に美しい女を見ては情慾を起し之を曲解するに至つては誠に心外千萬である、莫遮私は性慾を汚れたりと視る、僞善的信條的の宗教家ではない戀愛が人間の清淨なる事實である如く、性慾も亦人間の清淨なる事實である、然し戀愛なき性慾は肉體的に病毒を誘ひ、精神的に精力を銷磨せしめる、現代の流行病たる神經衰弱やヒステリイの如き性慾の完全なる解決を得ないのに基因する、戀愛に伴ふ性慾の滿足は體質を發達せしめ、心靈を鍛錬し進化せしめる、卽ち靈肉神聖で、禁欲

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

主義の宗教家が自覺したる現代人を導くことの出來ないのは、肉と靈の結合を無視するが故であろう、

今迄は女性と云ふと、男性にのみ批評を任せた結果、偏頗な解決をされて居たが、これからは女性自ら之を研究して思想上社會上婦人問題の解決を下さなければならない、これが眞に新らしい婦人の自覺である。

戀愛と英靈

婦人の誇！　婦人の誇！　そは何物ぞ？。

世界五千年の人文は私等人類が大自然を征服し支配して建設した一大宮殿である、この宮殿を、より美くしく裝飾せんが爲めには大なる美術家が必要である、之れに幽妙なる風韻を漾はしめん爲めには大なる詩人が必要である、之れに玄妙なる意義を附せんには大なる哲學者が必要である、之れにより多くの福利を附與せんが爲めには大なる科學者が必要である、之れに壯嚴の精靈を宿さんが爲めには大なる宗教家が必要である、之れを保護し之れに權威あらしめんが爲めには大なる帝王が必要である、之れを超脱せしめんが爲めには、大なる神秘家が必要である。

見よ！　如是の英靈を創造するは卽ち私等婦人の天職であり、誇である。

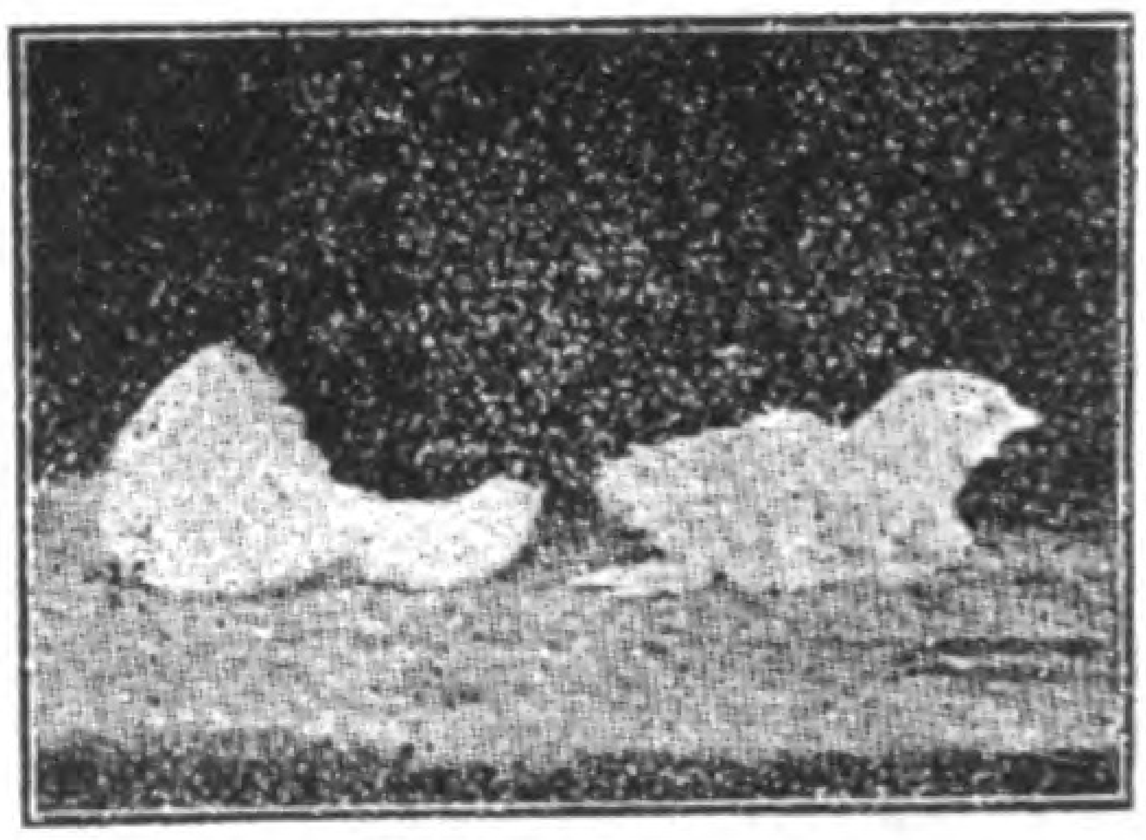
自覺したる男女の戀愛的結合に依つて、世界人文を指導すべき大英靈漢は生るゝのではないか、戀愛は自覺を生み、自覺は英靈を生み、文明を生むのである。

反響

前略本日和強樂堂に於て、盛なる發會式を擧行相成御高説一々拜聽致し貴會の御趣旨充分と一々了解相出來悦ばしく存居候、益々奮闘努力婦人の人格を說き、婦人の權利を進め、婦人心靈の開發祈上候

神田駿河臺
贊成者の一人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



野の聲

鳥林あぐり

私等女性の多くは今たしかに煩悶してゐる努力してゐる、何を煩悶し何を努力してゐる？曰く失はれたる我等の太陽を再びとりかへさうとして、亦曰く一個の人としての權利を自覺し又社會に認しむる爲に、――けれども果して如何したらば私たちの要求は滿足させられるのか、どうしたらば持つてゐるだけの力を何處に集注して生命ある活動が出來るのか具體的にいひあらはせるものが幾人あるだらう。

相對的に一個人或は社會からうける待遇によつて反對的に自分の社會的位置の高まつたのを知る位の事でこの空虛が充實する筈がない、同性のうちでも或る人々は、今の日本の男くらゐ女をふみつけてゐるものはない、男は我儘である、女を束縛してゐる奴隷視してゐる、妻は高等下女ではない、と夫の留守に叫んでゐる、さういふ人に今の日本の女くらゐ男にふみつけられてゐる否ふみつけさせてゐるものはない男に我儘をさせてゐる、男に束縛させてゐる、奴隷視させてゐると、いつてやりたい、普通の下女丈の義務、責任、獨立の觀念もない者に高等の名さへ勿體ないと思ふ、寧ろ男の寛大なのに驚く、物質

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

的にも精神的にも負擔の大部分は甘んじて負うて不平ひとつ云ふではなし、積極的に自由の意志で働くといふ貴重なものさへ捧げてゐて、かへつて女から不平をいはれ權利の方面ばかり主張されては隨分割があはぬではないか、といへばとてそれだから權利を主張してはならぬ、自由を叫ぶべきではないと私は決して云ふのではない、何故ならば私自身が女性だから、尊い一個の人だから、權利もほしい、自由もほしい、それを自分の物としてしつかりと放さず握つてゆきたい爲に、男性といふものについて、考へて見れば、又女性といふものについても私なくかへりみもするのである、思へば自らにさへはらたゝしい今の女性のいふかひなさを明みへさらけ出してつく／＼と共にながめ、苟くも暗い處は殘さずに、改められるかぎり改め、潔められるかぎり潔め、勉められるかぎり勉めて、云ひ分ないものにして、この光榮ある女性の名を黃金の字で夕陽輝く山上の城の白壁にかきつけたい。

女性は何の爲に生れて來た、他人にあたへる爲にと私は答へたい、愛を與へ、慰めを與へ、いこひを與へ、平和を與へ、高さを與へ、聖さを與へ、深みを與へ、優しさを與へ、うるほひを與へ、力を與へ希望を與へ、つきぬ生命を與へる爲に造られたものでなくて何であらう、女性は神の愛するものである、受くるより與ふるものゝ幸福を生れながらに持つて來たものである、女性の深刻な煩悶は何である、寶の持ちぐされが苦しいのである。物質的にも精神的にも人から與へられてのみ居る事は耐へられないとても我慢が出來ないのである、何かに、何處かに、誰かに與へてゐるといふ意識がなくては安らかに居られないといふ自らだにしらぬ程尊い聖い美くしい本能の爲に苦しみ悶えて居るのである、女性は眞善美からつかはされた、神聖な愛の傳道者である女性の叫びは今の女性の叫びは、甘い毒酒にたゞれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

THE LADY'S GRAPHIC

婦人畫報

五月一日發行　五月の卷　定價廿五錢　郵税二錢五厘　六冊前金税共一圓五十三錢　十二冊郵税共二圓九十四錢

畫報

▼花菖蒲　二頁大原色版　石川畫伯筆

◉柴又に於ける郊外料理の實習……

◉東宮並に二皇子殿下桃山御參拜

◉大森清花園に於けるさわらび會員の清遊……

◉三殿下の三十三間堂御成

◉家事人形……◉銀波金波……◉若葉のかげ……

◉東寺に於ける山階宮三殿下

◉新綠……◉帆影……◉白花……紫花……◉松籟……

◉梨本宮妃並に二女王殿下

◉大妃殿下御見舞

◉新らしき婦人の演説……◉飛行中尉と其家庭……

◉時代風俗人形（婦人博出品）

◉故鳩山博士銅像除幕式　◉貯金監理局事務の競技

◉各女學校卒業式と才媛

◉少女畫報愛讀者大會……◉泰西名畫「晩春の歌」……

◉諸名家の令孃

讀物

◉隱れたる二婦人の功績　三宅博士

▽社會に順應せよ……江木博士

▽自然美婦人……横井博士

▽忘れ得ぬ教へ子……宮田修

▽端午の節句……倉橋惣三

▽川柳に現れたる女……坂井久良岐

▽奥樣の色々……岸邊福雄

▼聲を美くする法……金杉博士

▼寫眞師より見たる美人……記者

▼ホテルに泊つた外國婦人……幸子

▼後の五拾錢會……S學士

▼危難の身に迫つた時……蕪子

▼櫻かゞみしぐれ　▼初夏……晶子

▼若き女の感情　久保良英

▼謡曲と鼓と仕舞……山階明子

▼冬物の仕末夏物の準備　井上秀子

▼尊き犠牲となれる飛行中尉と其家庭……記者

東京市麴町區飯田町四ノ四　振替口座東京一一八一八番

東京社

電話番號番町二三三九番　各地到る所の書店に有り

遊女 和田芳子著

◎遊女破天荒の著作

最新版 續遊女物語

高女卒業の才媛和田よし子、不幸にして苦海に淪落し新宿大萬樓にありて足掛け四年の實驗を告白するや江湖の同情一齊に喚發して本書前編の如きは約一ケ月を出でずして忽ち第五版を重ぬるの盛況を見たり。

◎口繪著者肖像
◎菊判四百三十頁
◎本文總かなつき
◎定價金九拾錢
◎小包料金八錢

◎前編目次の大要

◎續編目次の大要

▲遊女となる記
▲遊女日記
▲遊女物語をして後
▲花香鳥語
▲遊女の實驗
▲艶文集其他百十五項
▲樓內生活
▲花魁日記
▲入院中の所見
▲苦界雜感
▲世評一斑

等細目二百五十項に分ちて其實驗を赤裸々に物語る、

特に續篇刊行の以前遊女よし子は苦界の足を洗って新らしき生涯に入る 今は樓主に憚る所なく、朋輩に氣兼ねする處なく又彼女が周圍の情實に遠慮する所なくして 遊廓裏面の秘密。樓主の奸策、浮れ男操縱法を語る所、眞に社會研究家の絕好資料にして又近代稀有の試作なり。

發行所 東京市神田區駿河臺（振替東京七九三九番）合資會社 文明堂

特約 東京堂 振替東京二七〇番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

毎月一回
一日發行

道

一部郵税共十五錢
▲半年分八十五錢

主幹　松村介石

五月號要目

孫逸仙と語る……足堂
修養談……足堂
大隈伯邸に於ける內外宣敎師會……足堂
排日案と基督敎……大隈伯
排日案と基督敎……押川方義
本願寺(敎談)……野口復堂
無絃琴……物來
宗敎講話(其九)……大川周明
インネリズム(下)……淸水友次郎
新道德……西川光次郎
今岡君に學ぶ……松村介石
內村鑑三兄に問ふ……同人
道友會の記……一記者

發行所　府下荏原郡入新井村字不入斗八三〇番　振替口座一九三六七　天心社

第三十三卷　第五號

六合雜誌

五月號

定價一册 金拾五錢
半ケ年分 金九拾五錢

◎ワグネルの肖像……口繪
◎口繪の裏に……ないとう
◎現代英文學の宗敎的生命……內ケ崎作三郎
◎櫻咲くころ(短歌)……伊藤寥々
◎直覺と理性……野村隈畔
◎智慧……竹友藻風
◎キリアムジエームスの人間不滅論……白石喜之助
◎マレエヌ姫(メエテルリンク)……內藤濯譯
◎權利擁護論……安部磯雄
◎メモランダム……RTO
◎海外思想……記者
◎椿の島に(短歌)……伊東悌二
◎人事相談所に來る人に……鈴木文治
◎米國人のベルグソン評……ゆふしほ
◎南國より武藏野まで……坂本正雄
◎エレンケイとギルマン夫人の論爭……紘二郎
◎ワグネル論……三並良
◎社會的奉仕……ピイボディ博士
◎暮れ行くころ(創作)……加藤一夫
◎藝術と敎育……金子筑水
◎會議室の七分間(劇)……吉田紘二郎
◎福音主義とは何ぞや……同人

發行所　東京市芝區三田四國町　六合雜誌社　振替東京三〇〇〇一

本紙の特長

▲東京日日新聞は大阪毎日新聞社の經營に係り東西に相呼應して穩健着實の言論を鼓吹し社會の各方面に涉りて記事報道該博にして最も正確、最も迅速、特に財政、經濟、商況、物價就中生糸・養蠶に關する記事の機敏なるは夙に斯界のオーソリチーを以て目せられつゝあり

東京日日新聞

▲東京日日新聞は最も趣味高尙に重きを措き花も實もある好文字を滿載して堅實なる家庭子女の伴侶たるを期す、曰く諸博士大家の通俗講話、曰く文藝評論、美術諸名家の小品談片、曰く演藝、曰く運動、曰く園藝、曰く圍碁、將棋、漢詩、和歌、川柳、其他僂指百回にして盡きず

（三ケ月分前金郵税共一圓二十錢）

東京市丸の内 東京日日新聞發行所 振替口座二八〇〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

開放されたる學窓の伴侶

女學世界

五月號

●**新時代の女の行くべき道** 宮島五丈原

●**美を狙ふ惡魔のさゝやき** 佐穂姫

●**變り易い男執念深い女** くちなは

●**上流家庭を横行する愛の動物** 須藤孝太郎

▲**見たファウストの印象** 水野鉚子

□新眞婦人と良妻賢母 西川文子
□よしなしごと 小菊
□電話交換手と社會 内田技師
□令孃訪問の印象 ひな菊
□評判女の顏の觀察 玄龍子
□ノートブック 紅梅
□病人の心理 若松柳子
□神眼通 瀧夜叉
□婦人虚榮生活の背景……
□女中志願者の新傾向……
□ダリヤの栽培……
□結婚式の流行……

■見合の記 黒髮ゆり子

■女裝いろ〳〵草 小泉迂外

鮮麗優美 口繪滿載
正價貳拾錢 郵税二錢

前金 郵税共四册金八十三錢 八册金一圓六十一錢 十六册金三圓十二錢

東京本町 博文館

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

世界之日本

五月號 每月一回一日發行

定價壹冊十錢 郵稅壹錢
半年分六十錢 郵稅不要
壹年分壹圓廿錢 郵稅不要

▲恥を知れ！恥を知れ！……社説
▲米國の土地所有禁止案…服部綾雄
▲疲れたる民間志士…文學博士 三宅雪嶺
▲渡邊宮内大臣財界を棄す 本誌記者 田中雪次
▲日本の新婦人問題 醫學博士 佐伯矩
▲軍隊内の弊風……社長 橋本徹馬

●憲政の精神的基礎 文學士 内ケ崎作三郎
●新らしき女の行くべき道……西川文子
●漢高祖論……本誌記者 坂本正雄
●英雄の墓巡り……村島歸之
●三島彌太郎は曲者也……橋本徹馬
●小説 狂者の歌……長橋大河
●長詩●世界之大勢●散文等

●臭ひ者の言ひ草

(一)臭ひ者の言ひ草掲載の趣意……一記者
(二)私は善ひ事をしたと思うて居る 代議士 島田三郎
(三)徹底せざる桂後藤早川等の眼識 代議士 小久保喜七
(四)教科書等にある様には行きませぬ 代議士 松田源治
(五)我輩の除名せられたる顛末 代議士 早川鐵治
(六)桂公死すとも何かあらん 男爵 後藤新平
(七)別にまだ新政黨へは行かぬ 福本日南

發行所 神田區猿樂町三丁目一番地 世界之日本社 振替東京二六八六 電話本局三九一番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

祝發刊

東京市牛込區原町
三丁目三十六番地
兼子式靜座法修養團

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

毎月一回一日發行

道話

一部郵税共五錢▲十部同四十五錢

主幹　松村介石

森村市左衛門、松村介石兩氏の創立にかゝる『道の會』の機關雜誌にて、大正の心學道話なり。平易簡明に、趣味ある筆にて道德を說き號を重ぬること既に廿五、好評嘖々たり。

發行所　東京芝區三田一の七間島方　振替一三四四七　道の會

させられて殺され様とする靈魂の苦悶の聲である、此止むに止まれぬ要求を滿さうとするには、この實人生、卽ち家庭につき社會につき深い深い研究と苦しい〳〵戰を經なくてはならぬ、今の社會の有樣は家庭の狀態は自覺した靈の聲をあげて個人の權威を主張するうへにどれ程の矛盾を感せしめてゐるかわからない、私等は不言實行、たとへ一歩一歩つゝでも理想に向つてこのわけがたい棘の道を血だらけになつても切りひらいて行かなければならぬ、女性をして與へしめよ、心ゆくまで與へしめよ、貧しくみえても富んでゐるのである、弱く見えても强いのである、後に神の無盡藏がある、內に全能者の金剛力が潛んでゐる。

同性よ與へよ、與へよ、與ふる幸福を持つ爲に勉めよ、はげめよ、男をして人をしてよろこびうけ、進んでは求めしむるまで與ふる事だに出來るならば、權利も自由も平和も愛もみな長しへに我等のものである。

狸趣味

尾崎恒子

○

人が世渡りをして行くには狸趣味の必要があると思ひます、狸寢入りと云ふ言葉は禪から出たものですが、人間にはこの狸寢入りを學ぶ必要があります人は弱いものですから、人に動かされてすぐ喜怒哀樂の情を顏に顯はします、これは世渡りをする上に大變損になる下手な事だと思ひます。腹が立つた場合に、何にか喋れば、聞いた人も心持ちを惡くし、又一旦云つた事はハット思つても取返されないが、自分一人でおさへて居ればやがて消えて了ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私は決して獨身主義ではありません、只成行でかうして一人居る丈です。皆樣が我儘だからだとか、獨身主義だからだとか仰しやいますが、決してさうではありません。併し普通の女の樣に子供を產む事もなく、家庭につくす事も出來ない、云はゞ女としての任務を缺いて居るのですから、何かで社會の爲め、人樣の爲めに盡したいと思つて居ります、スルト不思議に若い十四五の方でも、又自分よりズット年重な奥さん方でも煩悶があれば私の處へ相談に來て呉れます、私は家庭のある方と違つて閑暇がありますから心の全部を注いで片づけて、又あとから來る煩悶に同情して片づけて上げる事が出來ます、能く人樣が孤獨で淋しいだらうと云うて呉れますが、社會的に自分が廣い方へ〳〵と行きますから、少しも淋しい事はありません。

○

こゝに數人の女があつて、お花見に參りましやうと云つて上野にしましやうか、向島にしましやうかとの問題が起つたが、仲々定まらぬので、ソレでは上野へ參りましやうと一人の婦人がいつて皆行く事になる、コウ云ふ場合に、あとで必らず私は向島が見たかつたのですけれどとか、飛鳥山へ行きたかつたのですがとか、內證で小言を云ふのを聞きます、自分で贊成して行て置きながら上野へ壓制的につれて行かれた樣に、各々思つて居るから可笑しい、男女關係も之れと同樣であると思ふ、男が壓迫してゐる爲めよりは、女自身が不得要領で弱い爲めに、女は非常に壓制されてる樣な形になつて居るのです。

○

普通の女の人と云ふものは呑氣なものだと思ひます、自分も女でゐてこんな事を申しますとをかしい樣ですが、自分は女とも男ともつかず、たゞ中性で男女を傍觀して居る樣な心持ちがいたします。或一人の知人の奥樣が或日里方へ行かれまして母親から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帝劇に行かないかとさそはれました、スルト奥さんは電話で夫の務め先きへ問ひ合された、所が良人は「行きたければドウなとせよ」と云ふ返答であつた、それで母親と同道して行つて夜十二時頃歸つて見れば門も鎖してあつた、里へ行かうかと思つてトツオイツして居る中に、幸にして女中が開けて呉れて入る事が出來た、翌日は良人は物も言はれなかつた相だ、奥さんはその話をさも大事件の樣に然かも得意氣に自分に話されました、私は奥さんと云ふものは氣樂なものだ、又一方ではあはれなものだと思ひました、それで貴女方は私どもと違つて御良人の御命令に絶對に服從しなければならぬのだから、御良人が快よく御すゝめにならぬ所へはいらつしやらないがよろしいよと御忠告を申しました、私どもから見れば針の先きでついた程のそんな小事件をさも〳〵大事かの樣に考へてゐられるのは、さても御婦人は呑氣なものだと思ひます。

○

今迄の普通の女は卑しいものだと思ふ、男子からカラカハレて本心から怒る女は極少ない、その證據には屹度人に向つて『まあイヤらしいあの男と云へばこんな事を云ふのですよ』と訴へます、本心から腹が立つならば第三者に向つて訴へる事は出來ない當人に復讐すればよい、破廉恥な事は、人には云はない、して見ると全く恥とは思はない、十中八九までは輕い誇りをいだくのです、女が男子にカラカハレ玩弄にされるのを眞に厭ふやうにならねば駄目です。

内田魯庵先生と語る

西川文子

自分『婦人問題に付て伺ひに參りました。

先生『私は婦人問題には少しも興味を持たない、從つて何にもこれと云ふ意見も考へもない、婦人問題とか婦人雜誌とか云ふものがあり得るものとは思はれない。婦人の問題は、やがて男子の問題だからね。婦人雜誌もあまり多く見ない、送つて來るから二三は見る。西洋の婦人雜誌も見る事は見るが單にひらいて見る丈けで深くも注意をしないが、大方は誰でも興味を持つ様な事を書たものか、或は文學雜誌です、尤も少しは料理とか裁縫の事も書てはあるが。

自分『家庭問題でも婦人側から婦人を主として見れば婦人問題では御座いますまいか、私は女も男と同じ人間であるから男のする惡い事を女もするといふよりは、男も女と同じ人間であるから女と同樣愼しんで男も惡い事はしないと云ふ様に、男を善い方に導く方が善いと存じますが先生は如何。

先生『私の考へでは女は現今の處どうしても男より劣つて居ると思ふ、昔からエライ女もあつたが、それは誰れ〱と數へられるのを見ても、多くの婦人が男子に劣つて居るのを證明して居る。ジャンダークと云ふ様な人は實際無かつた女だと抹殺する人が多くある、實際あつたとしても變性男子だ。私のうちの二人の女の子はまだ幼稚園へ行つて居るけれども男子と同じ敎育をしたいと思つて居る。女だからとて、料理裁縫とか技藝敎育を施さない。女は社會に對したり家庭に對する問題よりも女自身を敎育して、エラクならなければならぬ。

自分『私も先生と同感で兼ね〲も家庭の餘暇に絕へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ず勉強は致して居りましたが、同じ勉強するにも同志と共に力を合せて進んだり、何か目的を以て勉強した方が希望もあつてよろしいかと思ひますが、いかゞで御座いましやう。

先生『それは其人の趣味だから善いとも惡いとも云へないが、女はもつと〳〵強くならなければならぬ、日本ばかりでない、西洋でも女は尊ばれるの何んのと云つても實際は中々そうでない、矢島揖子女史が刑法改正の請願を毎年出すのに一萬とか幾萬とか年毎に増加するが、其多くの婦人の中に自分の周圍にある人、兄弟とか夫とかに刑法に觸れぬ人が幾人あるのであらう自分の周圍の人を矯正する事が出來ずに政治の力を借らねばならぬ樣な事では心細いではないか、又○○○○夫人は日本でも賢夫人と云はれる方だが、その夫の○○さん位不品行な人はなかつた、それで自分も不品行を是認して居るならよいが、夫人自らそう云ふ意見でないならば、夫の姦淫を罪する法律はなくても、そんな場合婦人から離縁を請求する事は許可されて居るから、其法文を利用して離縁でもなせしなかつたかと思はれる、そんなに女は弱いものだ、そして自分の意見を曲げてもさうして居るのを人は賢夫人と云ふ。

自分『眞に夫が妻君を愛して居るならば堅く取つて諫めたら聞かれぬと云ふ事は無いでしやう。

先生『否や思想が違ふからそれはどうか分らぬです。

自分『婦人が何かすると、何に自分一人勉強して居れば、今火の付いた樣にソンな事はしなくてもと云ふ人があるけれ共、私は男子のして居る事でもソンなに是非せねばならぬ事のみをして居るわけでないと思ひます、それで女だからとて何んでも趣味あり、する方が人の爲めにも自分の爲めにも善いと思ふ事はした方がよいかと思ひますが如何。

先生『男子は生活問題があるからです。私は思想界の事をソンな尊い事とも高尚な事とも人の爲めとも思

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

はぬ、自分はたゞ生活の爲めに何事でもする丈だ、生活から免れられゝば今すぐにでも何もしたくない。

自分『私は生活ばかりではない、趣味もあり、又一人でも二人でもそれによつて益を得たり、悟つたりして呉れる人があればよいと思つて自分の夫でも筆を取つて居りますが如何でしやう。

先生『ソレは八百屋や魚屋が大根や魚を持つて來てくれる、ソレによつて便利を得たり、慰められたりするのと同じだと思ふ、私は今ならばこんな事をしなかつたゞらうと思ふ、投書をしても沒書になつたり、載せられる丈ならコンな文士生活には入らなかつたと思ふ、が自分の若かつた頃は何か書いてやればすぐ金になつた、その爲め簡易生活をするに大變よいと思つてした迄です。

編輯局より

△第一回婦人雄辯會の日に御入會下されし會員及び賛助員の方々と懇親會や、しんみりとした研究會を開きたいと存じて居りましたが、雜誌の方が何分初號の事で、雜務が非常に多く毎日〱ごた〱いたして居りまして遂に其意を得ず殘念で御座いました、五月四日に第二回雄辯會開會後は是非研究會を開きたいと存じて居ります、皆樣と共に打明話しをしながら面白い中に修養研究をつみたいものと思ひます。

△初號の事とて編輯を早く〱切りましたので、切角御願いたしました、左の原稿を殘念ながら次號に延ばさればならぬ事となりました。

聖ニコライ號の船上にて　クープリン
トルストイ翁を見し記　瀨沼夏葉譯
婦人の生命　中島俊子
我の發展　相馬黑光
柳小路より　柏女
亂調　駒子

反響

昨日の御演說まことに感心して承りました、新眞婦人會の主義大に贊成しております、こんな主義のものが起ればよいと起す腕のなき私は願ふて居りましたので、昨日の御話のうちには自分の思ふておる樣なことを仰つて下さいましたので愉快で御座いました尙この上もます〱盛んに同主義のために御はたらき下さいまし、私は都合ありて姓名を明しかねますが陰ながらお力になる覺悟でおります。

三月十七日　さふれ拜

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

獨乙の婦人

加藤病院々長夫人　加藤さき子

洋行して獨乙などの家庭の有様を親しく見て來た人は、あちらの夫人が女中一人位を使つてきまりよく整理して居るのに、此方では三人も四人も使つて居てもそれ丈には出來ない、誠にダラシないのを遺憾に思ひます、どうかしてこんな風習を改めたいと思つて居ますが、どうも周圍の事情や何かでどうする事も出來ず、お耻かしい次第であります。

それは買物にも一人で行く事も、品物を見分ける事も出來ますが、やはりいろ／＼思はれるので、あゝもしたいこうもしたいと思ひながら、あまりいたしません、併し表面ではしない樣でも、やはり凡ての責任は主婦が一人で脊負つて立たねばなりませぬよく皆樣が多勢の人を使つて居て、さぞ樂だらうと仰しやつて下さいますが、中々樂どころではない、非常に心を使ひます、女でも多く世話をいたしますが世話甲斐があれば誠にうれしいが、何か落度でもあれば私の責になります。

私は小供がないけれども、多勢世話をいたしますから、なか／＼經驗によつていろ／＼學びます、人は可愛がるばかりでもいけません其人々の才能によつて、個性をのみ込んで適所に置くのが肝要だと思ひます。

御夫人方の中にはお芝居の御好きな方や、お遊びの御好きな方もありますが、私は浮いた事は嫌いで一日もうか／＼いたしません、毎日神奈川や横濱や東京とかけ廻つて居ますので、どこにも腰が落ちつかず、宿屋住居の樣ですが、それでも此方を片付けて出かけたらモー神奈川に居る心持ちになり、神奈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

川を片付けて横濱に行く時は又その氣になつて居ます、一日に幾舞台務めねばならぬか知れません。
　彼方に參りません以前は、家事の事が、何時も氣になりましたが、彼方の御夫人の風を見習ひまして、いくらか修養がつみましたか、此頃では、家に居る時は家の事、外に出た時は外の事、遊ぶ時は一切の用事を忘れて遊ぶと云ふ風に精神の使ひ分けをする事が出來る様になりました。

　獨乙の婦人(婦人ばかりではない男子も)ほど働き手はないと申します、又中々經濟思想が發達いたして居ります。歸りました時分は此方の風のあまり呑氣なぼんやりした風がをかしい様で御座いましたがつひ知らず〳〵馴れて了ひまして、改良する事もやういたさず、こう云ふ風にいたして居りますと申上る事も出來ず、お耻かしい次第で御座います。

女優生活

上山浦路

　私どもは絶えず強烈な刺戟を受けて居りますから、ダン〳〵神經が痲痺して了つて大抵なことは普通の事の様に存じて居りますけれど、局外の方が御覽になれば、隨分材料は豐富なものでしやう。木村さんの様な文章も立派にお書きになる方がせめて一年も女優社會に居て下さいまして、書いて頂いたらばさぞ面白からうと思ひます。併し自分に文章でも書ければ、とても女優なんぞ務まりませんから、却

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つて私どもの樣に何もかけぬもの丶方が幸かも知れません。女優なぞはさぞ自由だらうと仰しやる方がありますが、肉體から云つても、精神から云つても非常に縛られて居ります。役がよくなればよくなる程束縛されるのです。始めて女優になつた人などは申します、一寸外に出ても、お茶一つ呑む事も出來ず、空腹になつても何か食べる事も出來ない、これから顏が知られ、名が知らるれば益々ソレが烈しくなり、一生囚はれ人とならねばならぬと嘆きます。

精神的にも肉體的にも自分の自由になる時間と申しましては、ホンの夜五六時間の寢る間丈けです、絕えず自分と云ふものを別にして考へてゐなければなりませぬ、從つて自然に習ひ性となつて自分が變手古なものになる樣な氣がいたします。始終舞臺に立つて觀客を引つけて居る樣な氣分で居ります。

併し私どもは每日數はつた事を數はつたまゝして居るのですが、それも稽古して居るのかと申しますと、ソウでもなく午前十時から午後の五時までも帝劇に居りますもののソハ〳〵して時間を費し、人を待つたりして居る中に、つひ若いものが多數寄れば、下らない話も出ると云ふ樣なもので、本當につまらないと思ひます。それに局外の人の批評などは本當に當になりません、內部の事情もよく知らないで仰しやるのですから、然し、それを一々辯解して見た處で何んにもなりませんから、たゞ實行して見せるより仕方がないと思ひます。長い間には本當の事も分つて來ると思ひます。女がかまはず實行して行けば位置も高められましやう、私などは兩親もあり、實社會は少こしも知らず結婚して一年ばかり後に突然、こんな社會へ突き出されましたので、初めは其全く異つた空氣に驚いて面喰らつて了ひました、ソレで三年も致しました今頃になつてやう〳〵皆樣が女優になつてすぐお感じになる樣な事をヤット感じるので御座います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

生田長江先生と語る

西川文子

自分『婦人問題に就いて御意見を伺ひに參りました。

先生『私は婦人問題に就いては、保守的かも知れません、自分は何事でも新らしく／＼研究して進みたいと思つて居るが、婦人問題は他の問題とは違つて、家庭、社會に直接に影響するから、至極細心に取扱はねばならぬものと思ふ、他のものならば間接に影響する丈けにいくらか緩くなるけれども婦人問題は直接だからさうは行かない、無責任な急激な議論をして、これは藥が利きすぎたと氣付いた時はモウ時が遲いと思ふ、だから自分は馬場さんなどより十二三も年少だが意見は保守的かも知れぬ。

ソウかと云つてかの月並の良妻賢母主義は大嫌いです、一層昔の嚴格な武士敎育ならば、それはそれで善いが、今の女子敎育家は御都合主義でソウとも思はぬがたゞ自分の學校へ老人の父兄が安心して子女を入學さして呉れる樣にと云ふ、商賣根性から來て居るのだから仕方がない。多年の良妻賢母主義敎育の結果が今日現はれて、女子を物質的拜金主義にして了つた。男子の物質的になつたのも罪は多く婦人にあると思ふ。

婦人が男子と同等の權利を要求したり、男子と同樣に認められたいと云へば、表面から見れば男子と同樣になりつつある樣に見えるが、實は益々反對に別れて行かねばならぬと思ふ。何せと云ふにこれからの婦人は文學をしやうと藝術をしやうと、モット進んでは政治に加はらうと構はぬが、併し男子と同じ仕事をしても、女子は女子で文學では家庭小説とか、婦人に關したこととか、小供の研究とか云ふ方

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へ手を付け、又藝術にしても男子の方面とは違ふ處に手を付けねばならぬ、政治でも婦人の爲めに盡す方面に行かねばならぬ。

自分『エレン・ケイ女史の戀愛道德を黑岩先生は批評して結婚は戀愛ばかりではない、義務があるから、義務によらねばならぬ。男子が職業を擇ぶに義務ある如く、女子が結婚するにも義務が第一だとか、昔から戀愛なき結婚をしても結婚後愛は生じたと云ふ議論ですが私はドウも女子敎育家が古い感情に氣に入る樣に囚はれて居る如く、黑岩氏の議論は囚はれて、徹底した議論でないと思ふが如何ですか。

先生『無論私は戀愛なき結婚は不道德だと思ふ。親に對する義務とか夫に對する義務と云つてもそれに從ふには易きにつくのである。自己に忠實なのが一番道德に適つて居ると思ふ。

自分『結婚前の婦人は嚴密なる戀愛に依つて結婚すればソンなに徹底せる戀愛が、愛がさめると云ふ筈はないし、よしんばあつても、あれ位撰擇したのだから、それは我儘であると自ら誡めらるゝと思ふが、若し戀愛なくして結婚せる婦人が結婚後眞の戀愛の起つた場合は如何でしやう。

先生『そんな事は初めからかうと法文を作つておく事は出來ぬ、危險であるから又奬勵する樣にもなりあらかじめ云ふべきではないが、然し實際にソンな場合には、吾々は本能にある微妙なる道德心に訴へて判斷せねばならぬ、親切なる同情心を以て、丁重にあつかはねばならぬと思ふ。

これから新らしい婦人運動をしやうとなさるには、いづれ團體ならば不眞面目な人も入つて來る。ソノ爲め世人の誤解を招く樣な事があつても、一々氣にしては居られぬ、だから犧牲になる覺悟が第一に必要だ、何事も熱心で眞面目で、大膽でなければならぬ、眞面目と熱心と大膽でさへあれば成功する。と御注意と御奬勵の言葉を下さつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小供の日記

西川文子

私は小供が初めて產れました時に、この小供が大きくなつてから、小さい時の家庭の有樣を知りたいと思つても、親も一々詳しくは覺えてもゐられませぬし、切れ〳〵に記憶をたどつて話した處が目に見る樣にはとても話せません。それでこの小供が自分に日記をかく事の出來る時代まで、私が小供の立場になつて日記をつけてやらうと思ひました。昔の家庭、田舍の家庭の樣に、あまり變化のない家庭ならば、小供が大きくなつても、小さかりし時の事をほゞ想像する事が出來ましやうが、これからの曲折波瀾多き都會の生活では自分の幼時を偲ぶ爲には是非日記が必要であり又之れは面白き興味ある事と思ひます。私はこれから子を持たうとなさる皆樣にも、是非御すゝめいたしたいと思ひます。書く當時には何んでもなかつたことが、時へてから繰返して見ますると大變面白いもので御座います。又小供の日記を通して皆樣と御近づきになるによい樣に思ひますから、その中から少し摘出して見ましやう。これは昨年の今時分のです。

三月五日 雪子（長女五才）が庭の梅の花を折つて下さいとねだるので、今折らないでおきなさい、梅が生つてから上げましやうと云へば、梅がピーと鳴つてからと申しました。

十日 演習か何かでドン〳〵と大砲の音が聞えましたら、雪子は母アさんドンがなつたから御飯にしましやう〳〵と申しました、ソレは朝の九時頃でしたのに。

十六日 ゑみ子がもの言ひ初めで、ワウ〳〵と云ふやうな音ばかり出して居ると雪子はワウ〳〵ばかり云はないで猫と云つて御覽と云ひます。

十八日 ゑみ子は（次女二才）此頃失敬することを覺えて、失敬と云ふと右の人さし指を額にあてゝ笑ひます。或日兄ちやんのお友達が遊びに來て居て、歸る時に失敬と云つて行きましたら、お乳をのんで居たゑみ子はあわてゝチヨクンと例の如く頭へ指をさしました。雪子がお友達に失敬しないで、もつと遊んで居らつしやいと云ふ時にも、ゑみ子は指を頭へチヨツト持つて行きます、雪子はゑみ子が窓際に指をつきながら歩くのを見て、エミチヤンと云へば障子に失敬しとるのと云ひます。

廿日 雪子は湯に入つて、切りに石鹼をつけては落すので、よく洗つてからでなくては、すぐ落しては駄目ですと敎へました、ソコへ三助が背を洗ひに來ましたら、石鹼をぢき落しちや駄目ですよとオーム返しに云ひました。

皆樣に申し上げてます、これに例つてとは申しませんが、こんな觀察ばかりでなく、いろ〳〵の方面から小供を觀察して、母親のかいた、小供の日記を見ればお互に參考になつて大變おもしろいと思ひます。ドウか投書して下さい、そして母と子のお寫眞をも送つて下さい、婦人の位置を高める爲めの評論雜誌だからとて、是れは又無邪氣であどけなくてよろしからうと思ひます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

談話室

婦人雜誌の口繪

私は自分が上流でないから反抗心を持て云ふのではないが、今日多くの婦人雜誌の口繪に上流社會の令孃とか令夫人とかの肖像を何の理由もないのに掲げたり、新郎新婦の華やかな寫眞を出したりするのは、あまり善い心持ちがいたしません。若い婦人が幸にして皆が皆さう云ふ風に幸福になれば結構ですが、世の中は中々さうとばかりは定りません、自分が不幸な場合にも率直にあゝ美くしいと善い心持ちで見られましやうか、自然に厭世觀を起したり、悲觀したりいたしますまいか。さうでなくても精神上の事は思はないで外形ばかり見て、かうもしたいあゝもしたいと云ふ心ばかり起させはすまいかと思います。

婦人が婦人自身の事をするに男子の手をかられば出來ぬと云ふ事は心細いわけですから、女子ばかりでしやうと云ふ事には、眞に贊成で御座います。(村井夫人談)

江木文庫

世の中には無意味な事に御馳走をしたり、一寸威張りたさに大變金目な遣物をしたりする事が、不用意な人にはあり勝であるが、ソンナ金で心の食糧になる修養書であるとか、新智識を呼吸さす爲めの新刊ものなぞを、友人知人に送るのは眞に善い思付だと思ふ。江木榮子夫人は新刊の雜誌などを絶えず知人に送らるゝので、夫人の知人の中には、江木文庫と云つて夫人から送られた書物ばかりで一文庫が出來て居る方もあるとの事である、觀劇に行く費用をソンナ方へ向ける樣になれば、上流社會の婦人問題も今少し而白くなつて來るだらうと思ふ。(一記者)

田舍の婦人

今日は凡ての方面が動いてをりますが、婦人問題が尤も急務ですから婦人の方が自から婦人問題を解決なさらうと云ふのは、結構で御座いますね。併し又一面から見れば婦人問題は男子から先づ改めねばならぬと思ひます。それで私達も早稻田から婦人雜誌を出すつもりになつて居ります、併し眞の婦人運動をする人は地方から出るでしやう、眞に家庭問題で苦しめられてゐる田舍の婦人が立つたらソレこそ本物になるでしやう、東京では何でもお祭り騷ぎにされて了ひますから。(相馬御風氏談)

芝居ずき

私は都會に育ちました爲か、奇麗なものと云へば快よく感じます、年若いものが好んで見苦しい風俗をいたしますよりは、奇麗に

いたしました方が、自分の爲めにも人樣が御覽になりましても、心持ちがよいかと存じます、それで私の風が目につくから惡いのかも知れませぬが、私は小さい時分から芝居がすきですから研究する爲めに參りますと、直ぐ新聞に何のかのと申される、研究の爲めに參りますものは男の方と同樣の感情を以て見て頂きたいのですが、まさか私は研究の爲めだと云ふ看板を懸けて參るわけにも參りませんから、やはり浮いた考で見物に行く樣に思はれまして眞に困ります。若し職業服の樣なものが一定されてゐて劇評家はソレを着て參つたらよからうかと存じますが、ソレも大勢の中へ一人二人異樣な風をして行つたのでは、却つて目についていけないかも知れません。

併し私どもの娘時代には何かいたしたいと存じましても、兩親がやかましく申しますし、兩親は許しましても、親戚がやかましくて、中々何事も出來ませんでしたが、此頃ではよほど改まつて參りました。私は芝居が好きで御座いますから、自分にシバヰと云ふ雜誌を發行し、うちでも稽古をさして居りますが、何もかも一人で御座いますから、なか／＼困難で御座います。芝居は脚本をつくる人と出演する人と、觀る人と調子を合はせればなりませぬから、むつかしいもので御座います。（長谷川時雨女史談）

露西亞の婦人

日本の現代の婦人のありさまはまことになさけないではありませんか、まるで鎖のついた犬の樣です。露西亞婦人などは隨分自由で御座いますから、必要のない故でもありましやうが、英國の婦人の樣に政治運動とか社會運動などはあまりいたしません、どちらかと云へば獨乙婦人の如く家庭の人としての婦人が多い樣で御座います、私も二度ばかり露西亞に參りましたもの丶、少し文學界のことなどを研究して參りたいと存じましてもなか／＼彼方へ行けば親戚とか何とかの交際に追はれまして何にも觀察が出來ません、ソウ云ふ有樣ですから自然著述なども男の人の手になつたもの丶外あまり婦人の手には大作もありません、殊にこの二三年はこれと云ふほどの出版はなくて、やはりトルストイの作物で生前に世に知られなかつたものを、親戚知人の手によつて出版され、それが評判されて居る樣で御座います、日本でも青年にトルストイ崇拜者の多くある樣に、なか／＼あちらでも若い人には翁の崇拜家が多いけれども、正教派の良い家庭のお母アさんは自分の息子が信仰から離れて異端じみてゆくのは、皆トルストイに傷つけられたのだと、咀つて居ます。（瀬沼夏葉女史）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東西南北

本誌を御讀み下さつた御婦人方から、種々の投書に接せんことは、本社の希望して止まざる所でありますが、殊に本欄への投書を歡迎します、御投稿を乞ふ。

熊本より

當地九州新聞にて貴女の記事を昔懸しく拜見、そゞろ其の當時の偲ばれ貴女と物語る心地致し候、貴女の悲慘なる往時の劇あゝ劇さながらの劇があり〳〵と目のあたりに彷彿として橫り申候、併し今日の成功ありて始めて貴女の輝々たる來歷が光を放ち、申す次第に候、自今猶一層日本婦人の爲め獻身的御奮鬪を願上候。實は直に委しき御返事差上んと存じて居ましたものゝ商務に忙殺され今日迄も心ならずも只一片の端書にて現在の內外的狀態をほのめかし申候處、新聞に接するにつけて懸しき友情はやゝ濕なく、寸時をぬすみて走りがきのまゝを申上候、一二友人へも御發起の事業の趣意其の他貴女の事などを特に御紹會申居候へば、何れ當地にも一部の婦人出現致すべくと存候。私は現今は境遇の變化、責任の負擔亡父の事業を繼續致し居候、貴女と方面は異れど、自覺に於ては一と存じ候、私は世話女房となりて實業界に外的活動致し居候。

夫と共に商策參謀に敏腕を揮ふべく汗を搾り居候、眠むれる現今の賢母良妻はいざ知らず、眞新の婦人の生命は良人と共に職業の自覺に眼を放つべく、上下を通じて百姓も大臣も凡て妻は其の意義を充分解したるものを、生ける婦人と私は絕叫致します。

私は朝も早くより起きて、店頭の商品陳列の世話から帳簿の整理、お客への應接及び商業取引の百般の事務等凡ての事を引受けて、職工も貳拾人斗り使役致し居候。夫は多く外交で、私も時々出かけます。私は敢て申します現今の賢母良妻は高等下女の如きものと言つても過言でありませぬ、又所謂新らしがる婦人は西洋かぶれの煮えきらぬ薄ぺらな突飛な狂的思想の婦人であります。更に又何々婦人會何々慈善等の名のみ高大な事を言ひふらして、僞善虛飾の下に一かど人間の花でも咲かしたかの如くに得意顏の面にくさ、私は此の種の婦人が大きらひです。私の眞に望む新しい婦人は車夫の妻でも可し、政治家の妻でも可し、乃至は商人の妻でもよし、何れを問はず夫の爲すべき職務の天分を自覺して、強烈なる眞理の一點を認むる者こそ眞に新らしき婦人と申すべく候はずや。貴女は豫言者として眞新婦人會の發展を謀つて下さい、私は一つの小さき實行家としていさゝかの理想を實現して行くつもりです。(下略)

三月下旬　林　琴子

木村駒子様

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

懸賞募集（〆切毎月十日）

■婦人に關する論文（二頁以内）　西川文子選

■男優りの女（二頁以内）　編輯局選

■小品文（半頁以内）　鳥林あぐり選

■口語詩（一人五首以内）　木村駒子選

■和歌（一人五首以内）　小口みち子選

■俳句（一人五句以内）　編輯局選

■小供の日記及び寫眞（五歳以下の小供）　編輯局選

■スケッチ畫　同

■カット　同

注意　カットは成るべく小さいもの。スケッチは二寸三寸位のもの、論文、經歷、小品文は用紙原稿紙、和歌、俳句は用紙ハガキ。

賞　使用せしカットは、五十錢づゝ、スケッチは一圓づつ△論文、男優りの女は一等二圓△其他は一等一圓、二等五十錢、三等三十錢

新眞婦人定價表（毎月一回一日發行）

一冊	（郵税一錢）	拾錢
半年分	（郵税共前金）	六拾錢
一年分	（郵税共前金）	壹圓拾錢

御注意　●注文は總て前金の事前金盡くれば必ず「盡」の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す●郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割增

◎新眞婦人廣告面　字詰は五號活字一行廿四字詰一段十七行一頁卅四行にて木版を要するものは別に實費を申受くべし其料金特別面廿圓、普通面十圓、

大正貳年四月廿五日印刷納本
大正貳年五月一日發行

發行兼編輯人及印刷人　本郷區駒込林町二〇〇　西川文子

印刷所　本所區番場町四　凸版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込林町二百番地　新眞婦人社

郵便振替貯金口座東京（二四五五六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西川文子 木村駒子 宮崎光子著

新らしき女の行く可き道

定價 五十錢

送料 八錢

私共は新眞婦人會を起したが、其の目的の何れにあるかを御尋ねの方々に此の書の一讀を願ひます。私共は又婦人雄辯會を開きましたが、何んの必要ありてソンナことをするかとお尋ねの方々に、此の書の一讀を願ひます。更に又女の見たる社會觀、男子觀を知りたい方々に、歐米で喧ましい婦人運動が如何に日本婦人の頭に影響せんとしつゝあるかを知りたい方々に此書の一讀を希望します。

東京麹町二丁目二番地
振替東京二〇九一四番

發行所 洛陽堂

（電話番町四二五八）

稀有の自白書現る

●各新聞・雜誌は何れも筆を揃へて激賞せり

丁抹カリン・ミヒアエリス女史原著
涙香 黒岩周六先生評論
萬朝報記者文學士 小野秀雄先生補譯
春帆 片山春雄先生裝禎

忽三版發行

離婚せる四十女の思ひ切た告白

口繪 原著者肖像

優美裝禎
嶄新函入
四六版三百廿頁
定價金八十錢
小包料金八錢

好評無二

本書は曩に『危險なる年齡』と題して丁抹に於て出版せられ近ごろ『**大膽なる現實曝露**』として英獨佛の各國語に飜譯せられ忽ち數十百版を重ね到る所に空前の反響を惹起したる奇書なり

嗚呼危險なる年齡！危險なる年齡！社會の信用最も厚く世人の尊敬最も深き婦人の四十歳は何が故に果して爾く危險なるか、著者は其の離婚前後一年間の苦しき經驗と其**青春時代**に遡り奔放なる感情と虚榮に擒はれて或時は老富豪の妻たらんとし、或は年少の青年に愛を求めし等寸毫も蔽ふ所なく**告白**して此事實を證明したり、**秘密多き四十女**の心は本書により赤裸々に現はれ讀者をして茫然自失せしめずんば止まず世に婦人の秘密を語れる書は多しと雖未だ信用厚き四十女の秘密を語て其眞想を發ける本書の如きものなし歐米の讀書界を驚倒せしめたる亦宜なりと謂つべし小野先生其の流麗の筆を揮てこれを邦語に譯出し附するに黒岩先生の剴切奇警なる**四十頁の大論文**を以てす眞に錦上花を添るの感あり乞ふ未說の秘密を知れ

●本書は永遠不朽の名著と斷言して憚らざるなり

發行所 東京神田松下町十 振替東京四一八四 以文館

此廣告を見て申込の方は必ず新眞婦人愛讀者なる旨御申添を乞ふ

大阪毎日新聞記者　齋藤溪舟著

女官物語

●家庭の好讀物として此の如く清新高雅而して教訓を含めるもの本書を措きてまた他に求むべからず●

好評三版

四六版二百六十餘頁
高級女官寫眞入頗美本
定價金七拾錢
送料八錢

▲報知新聞批評

すまじきものは宮仕へとは封建時代の遺言、今は清粧の面影やさしく君に仕ふる光榮ある其女官のくさ／＼の物語を趣味ある筆にて記せるが本書なり、皇居の帳深き裡にも、面白き物語少しとせず要するに**出版界稀有**の良書なり

▲國民新聞批評

七重八重九重に紫雲立こめたる宮中の別天地その明けくれの優にやさしき又はをかしき面白き何くれの物語は美しき筆もて詳かに寫し出さる**家庭**に於ける**絶好**の**讀物**たらずんばあらず

發行所
東京市本郷區本郷一丁目
電話下谷四三六二番
振替東京一二五五八
日東堂

文學士 沼波瓊音先生著

此一筋

（『大正文庫』第二編）

三六判箱入
定價七十錢
郵稅八錢

現時俳壇の飛將軍、沼波先生の新著なり。先生曰はく、「この書に、大知識大感想ありて、天下の士、必ず一本を求めよとは言はず。たゞ書中、或物ありて存す。この或物は、或人には輕んぜられんも、或人にはゾク〳〵と嬉しがらるゝなり。其の嬉しがりそうな方にのみ、これを侑む。」と。本屋曰はく、「輕んずるも可、嬉しがるも不可なし。たゞ買ふ人の多からむことを、切望に堪へず。」と。

文學博士 三宅雪嶺先生著

大正文庫 第一編

明治思想小史

定價五十錢
郵稅六錢

大住嘯風先生著

現代思想講話

定價一圓廿錢
郵稅八錢

東京小石川區原町六 振替東京一五六八六 丙午出版社

東京小石川原町六 振替東京一三五三 鷄聲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

純良無菌牛乳販賣

興眞舍

古谷精一

電話番町二千三百九十一

小石川區氷川下町三十四

一、興眞舍の**特色**は**多**からず只だ**責任**を重んずる一事のみ。

一、弊主より牧夫配達夫に至る迄、人なり、紳士なり、神子なりとの自覺を有す。

一、牛乳の殺菌裝置は極めて新式なれども、猶華客諸彥の賁臨を仰ぎて御批評御指導を得んことを祈る。

一、弊舍の純粹種牛は、日本に於ては第一流を下らずホルスタイン、ゼルシー、アシャ何時にても種牛の求に應ず。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

本紙の特長

▲讀賣新聞は最古の新聞なれど、其の紙上は常に最も新たなる氣分に充てり。新らしき女も男も讀賣新聞を讀まざるべからず。

讀賣新聞

前金
三ヶ月分　一圓
六ヶ月分　一圓九十錢

▲婦人界の消息文藝界の消息乃至は教育界の消息に通ぜんとするものは讀賣新聞を讀むべし。

東京京橋區銀座一丁目
振替六一二

讀賣新聞社

季節向き化粧品陳列

御婚禮御化粧法

右御化粧法の義は當館々主多年の經驗により御素顔の美を損ぜぬやう又お召物との配合光りの接觸等入念なる注意と熟練せる技術とによりて御用命に應じ申すべく陸續御申込み相なりたく伏して希望いたし候
尙ほ季節向き御化粧品種々取り揃へ御注文に相叶ひ候やう陳列致しあり候外個人的にして一つの美術とも申すべき化粧法に關し當館多年の經驗により御相談の御相手たるべき事を確信致し居り候

東京市京橋區
竹川町一二
理容館
電話新橋一五一九
振替口座東京一四一〇〇

御化粧法の御相談相手

時と金

期日の正確と校正の嚴密は弊所の生命！

迅速　鮮明

歐文。和文。樂譜
活版。石版。銅版
各種。印刷。製本

廉價　優良

飜譯、文案、圖案、便利御紹介可申候

教文館印刷所

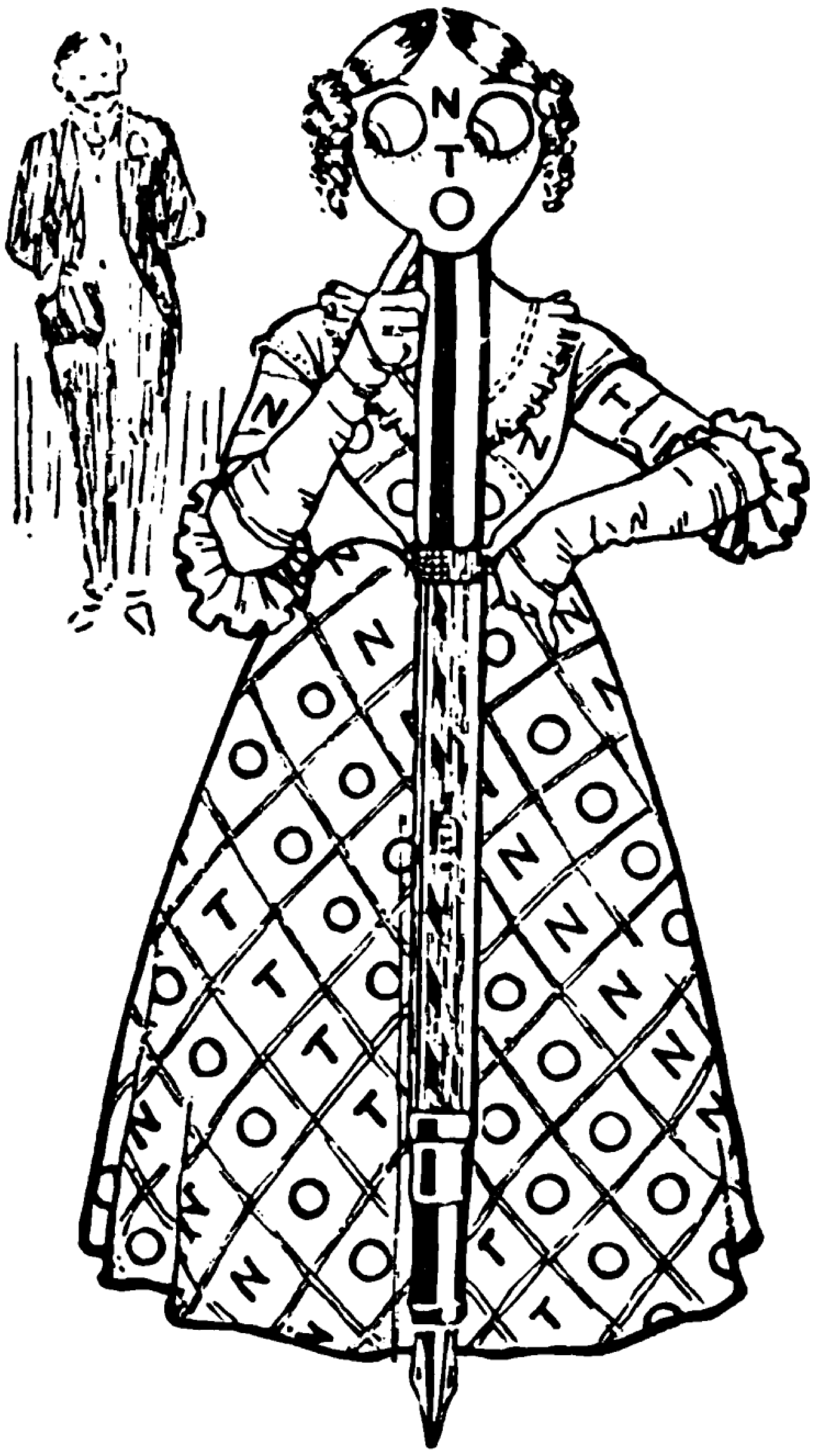
東京銀座四丁目壹番地
電話京橋二五一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭を新らしくせよ

——萬年筆を使用せよ——

主人の書齋ばかりが新らしきは一家の幸ひに非ず、却て往々不幸也、先づ婦人の身邊座右を新らしくせよ、硯箱を廢せよ、日記にも小遣帳にも手紙にも葉書にも請取にも萬年筆を用ひよ、新らしき氣分は萬年筆の金ペンより迸ばしる、簡單、敏活、淸新、快潤は萬年筆の產物也



オリオン萬年筆 金貳圓八十錢 飾付金三圓廿五錢

オノト萬年筆 N號金六圓 飾付十數種

東京市日本橋通

丸善株式會社

注意 軸部に"ORION"又は"ONOTO"の名稱なきものは模造品也●萬年筆目錄は御照會次第送呈

大正二年四月二十九日第三種郵便物認可
大正二年四月二十五日印刷納本
大正二年五月一日發行（每月一回一日發行）

新装

『いたづら小僧日記』譯者 佐々木邦譯

新世帶物語

『いたづら小僧日記』よりも一層内容は面白いとの評判ありし當世の新細君と新良人の日記なる『當世細君氣質』と『當世良人氣質』とを合せ、『新世帶物語』と題し上製美装の書となして發賣す。娛樂的讀物として天下一品、文壇の珍。

上製美本 價八拾錢 郵稅八錢

▲『中央新聞』評 ――天下の奇書『いたづら小僧日記』を出して文名を擅にした佐々木邦氏の譯、面白くない筈は無い。輕妙で愈々圓熟した筆致は、木ッ葉文士共の企て及ばぬ趣が有る。其の口を衝いて出づる上品な滑稽には、如何に抹香を頰張つた閻魔の樣な顏をした人でも噴き出さずには居られまい。

▲『新佛教』評 ――『いたづら小僧日記』を模倣した出版物は十幾種にも及んだが、本家は本家だけあつて何れを讀んでも『いたづら小僧』程面白いものは無い。今此書は其の『いたづら小僧』と原著者も譯者も同じく、其の主人公は『いたづら小僧』の兄さんや姉さんとも云ふべき人物なれば、讀んで頗る面白い。定めし又模倣物が出ることだらう。

最新刊

イク・マーベル原著 佐々木邦譯

夢想生活

一名 氣まぐれ者の夢物語

上製美本 正價壹圓 郵稅八錢

イク・マーベルの最傑作『ドリーム・ライフ』の新譯、内容の大と精と巧麗とは確に『獨身者の獨思案』以上なり。是れ人一代の夢物語、夢想の裡に描き出されたる生より死に至るまでの長物語、七十餘年の喜怒哀樂は讀者をして恍として書中の人たらしむ。噫夢想か嗚呼現實か、此書を讀みて樂しまざる者は白痴なり、此書を讀みて泣かざる者は木石なり。

マーベル著 佐々木邦譯 忽ち四版

獨身者の獨思案（ひとりもののひとりしあん）

上製美本 定價壹圓 郵稅八錢

黑川靜夫譯 忽ち六版

若き人々へ

價五十錢 郵稅六錢

▲『松陽新報』評 ――本書は數年前米國にて發行せられし『私は貴方を愛する故に』と云へる書を敷衍的に譯したるもの、戀愛、情交、結婚、家庭の四に分ち、何うすれば愛せらるゝか、相愛する者は如何に交際すべきか、婚約前後の情緒の發動、成婚迄の男女の心得は如何、結婚後家庭の心得は如何等を說き、一見若き人々の好奇心を唆りさうな題目なれど、案外眞摯の筆致にて、文意暢達潤色に富み、頗る平易に面白く讀まるゝ書なり。

▲『巖手每日新聞』評 ――本書は一九〇三年米國で發刊された名高い本で、愛を中心として世態人情の極致を說いてある。西と東に處は隔つても人情に異ひは無い。何うすれば愛せらるゝかと云ふ事と、相愛同士が結婚するまでの事と、結婚して後の事とを書いてあるが、日本人の情態と左程の變りは無く、之を讀む若い男女には敎訓とも心得ともならう。

堺枯川著 重版出來

家庭の新風味

上製美本 定價壹圓 郵稅八錢

▲『大阪朝日新聞』評 ――孰れも有益なる文字にあらざるはなし。妻たり娘たる者、親たり夫たる者皆讀むべし。而して之を實地に應用せば、理想的ホームを作り出すこと敢て難事に非ざるべし。

▲『每日新聞』評 ――優しき文字に著者の性格も思ひ遣られていと床し。世の娘達、妻君達、男姑達に一讀を勸む。

堺枯川編 重版出來

家庭夜話

上製美本 定價壹圓 郵稅八錢

本書は世界的傑作小說の大體譯なり。『子孫繁昌の話』はゾラの大作『フルートフルネス』を譯し、『質素儉約の話』はゴールドスミスの傑作『ヴイカ、オブ、ウエーキフイルド』を譯し、『仁慈博愛の話』はストー夫人の名作『アンクル、トムス、ケビン』を譯す。最良なる家庭の讀物として『時事』『朝日』『報知』等の諸紙皆之を稱讚す。

版元
東京巢鴨町上駒込二十番地
振替口座東京三百五十五番
內外出版協會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA